



2016年(平成28年)7月28日(木)発行

発行所 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: http://www.ecesj.com/

発行者 応用生態工学会(編集責任者:幹事長 藤口乾一, 事務局長 小川鶴藏)

1	はじめに	1
2	応用生態工学会第20回総会案内	2
3	応用生態工学会第20回大会(20周年記念東京大会)案内	3
4	鬼怒川災害調査報告会開催報告	32
5	行事開催案内と開催報告	
5.1	第15回北信越現地ワークショップ in 新潟 開催案内	35
5.2	第8回全国フィールドシンポジウム in 仙台 開催報告	37
6	Society for Freshwater Science Annual Meeting 2016 参加報告	43
7	年間行事予定	45
8	事務局より	46

1 はじめに

第20回総会開催案内を掲載しました。

会員の皆様には、メールまたはハガキで「応用生態工学会第20回総会案内」を送りました。回答期限(8月15日(月))までに、出欠と、欠席される会員様には委任状のフォームがありますので、必ず返信いただきますよう、お願いいたします。総会の成立には、正会員の1/5以上の出席または委任状が必要です。

第20回大会(20周年記念東京大会)の詳細が決まりましたので、ご案内いたします。

応用生態工学会が発足して20周年を迎えた、今年の第20回大会(20周年記念東京大会)では、公開シンポジウム「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」

と題しての公開シンポジウムを企画し、創学の目標である、生態学と土木工学の境界領域において、新たな理論・知識・技術体系としての「応用生態工学」にどの程度近づいたかを検証し、気候変動や、今後の社会の変化に対応した学会活動の方向性を探る機会としたいとしています。

また、大会案内では、大会参加申し込み方法や大会プログラム、エクスカージョンなど、大会の詳細を掲載しています。

応用生態工学会会長特命鬼怒川災害調査団から鬼怒川災害調査報告書が7月18日に会長あてに提出されました。

このニュースレターでは、本年4月27日に開催された会長特命鬼怒川災害調査団主催による鬼怒川災害調査報告会の開催報告を掲載しました。

鬼怒川災害調査報告書については、ホームページや学会誌などで会員の皆様にお知らせする予定にしています。

英文誌 LEE の送本方法を変更します。

これまで学会誌は応用生態工学会から、また、英文誌 LEE は Springer 社から、それぞれ会員と購読者に届けていましたが、ICLEE 参加学会が協議して英文誌 LEE の送本方法を変更しました。

英文誌 LEE 購読者の皆様には、間もなく発行する学会誌 Vol. 19 No. 1 から、応用生態工学会から学会誌と合わせて英文誌 LEE をお届けします。

2 応用生態工学会第20回総会開催案内

応用生態工学会第20回総会を下記のとおり開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第20回総会は、応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会）の3日目に開催します。

日 時：平成28年9月4日（日） 10：30～11：30

場 所：東京大学農学部弥生講堂一条ホール

なお、総会の成立には正会員の1/5以上の出席が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信・送付した委任状（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、8月15日（月）までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、8月中旬にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください。

3 応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会）案内

応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会）
2016年（平成28年）9月2日（金）～9月5日（月）
第20回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エクスカージョン

1. 大会概要

応用生態工学会では、2016年（平成28年）9月2日（金）～5日（月）に東京都文京区（東京大学農学部）にて、第20回大会（20周年記念東京大会）を開催します。

9月2日（金）～3日（土）に行われる研究発表では、45件の口頭発表、72件のポスター発表が行われます。また、自由集会は9つの集会在企画されています。

9月4日（日）には、公開シンポジウム『気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー』を開催します。前半の講演の部では、会長である辻本哲郎名古屋大学名誉教授から、工学分野から見た応用生態工学の20年間の評価と今後の課題について、前会長である谷田一三大阪府立大学名誉教授から、生態分野から見た応用生態工学の20年間の評価と今後の課題についてお話しいただきます。第2部では、工学、生態学、農業計画、環境社会学の観点から、適応及びレジリエンスに関するご講演をいただき、後半のパネルディスカッションの部では行政の方にも登壇いただき、さまざまな関係者が活発な意見交換・情報交換を行えるシンポジウムとしたいと考えています。なお、このシンポジウムは公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会最終日の9月5日（月）には、気候変動に起因する豪雨災害への対応や長期にわたる環境変化にも適応した環境施策を行っている場所を見学するエクスカージョンを行います。

なお、本大会は、土木学会継続教育（CPD）プログラムに認定されています。

【会場】

- 研究発表・総会・公開シンポジウム：東京大学農学部弥生講堂，農学部1号館
住所：東京都文京区弥生1-1-1
電話：03-5841-8205（弥生講堂事務室）
URL：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>
- 懇親会：東京大学農学部3号館 農学部食堂
- エクスカージョン：利根大堰，渡良瀬遊水地，首都圏外郭放水路

【大会日程】

9月2日（金）

- | | | |
|----------------------------|-------------|-----------|
| ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」 | 9:00～11:00 | 一条ホール |
| ・自由集会「ダム下流河川の生物群集の特性とその要因」 | 9:00～11:00 | 第8講義室 |
| ・自由集会「生態系の自然浄化機能の理解と活かし方」 | 9:00～11:00 | 第6講義室 |
| ・ポスター発表（コアタイムA） | 11:00～12:00 | セイホクギャラリー |
| ・ポスター発表（コアタイムB） | 13:00～14:00 | セイホクギャラリー |

- ・自由集会「応用生態工学で UAV を活用する！」 14:30～16:30 一条ホール
- ・会議「第5回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）
14:30～16:30 弥生講堂会議室
- ・自由集会「生物多様性の評価におけるβ多様性の重要性」 14:30～16:30 第8講義室
- ・自由集会「河川生態を分かり易く表現する」 16:45～18:45 一条ホール
- ・自由集会「河川環境保全の現場：過去・現在・未来」 16:45～18:45 第8講義室

9月3日（土）

- ・口頭発表 9:00～12:15 一条ホール, 第8講義室
13:00～15:30 一条ホール, 第8講義室
- ・自由集会「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？
ー水田水域における多様な生物の保全と再生ー」 15:45～17:45 一条ホール
- ・自由集会「菊池川における河川生態学術研究：菊池川流域
における地質による山地溪流の生態系の差異
および氾濫原の環境の劣化と再生」 15:45～17:45 第8講義室
- ・懇親会 18:00～20:00 3号館農学部食堂

9月4日（日）

- ・総会 10:30～11:30 一条ホール
- ・発表賞表彰 11:30～12:00 一条ホール
- ・公開シンポジウム
「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンス
ー応用生態工学の新たな展開ー」 13:00～17:00 一条ホール

9月5日（月）

利根大堰～渡良遊水地～江戸川および首都圏外郭放水路コース

09:00 JR 高崎線「行田駅」集合・出発

利根大堰下流の現地見学（砂礫河原再生，たまり池再生，湿地整備等）

渡良瀬遊水地の現地見学（水辺再生，エコロジカルネットワーク等）

河道掘削における湿地環境の創出・復元箇所，首都圏外郭放水路の現地見学

16:25 東武野田線（東武アーバンパークライン）「南桜井駅」解散

<参加／発表される皆様へ>

《受付》

- ・9月2日(金)は，8:30 から参加の受付を開始します。受付は，時間帯によって非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・9月3日(土)は，8:30 から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は8:30 から行います。
- ・9月4日(日)の総会は，10:00 から参加の受付を開始します。
- ・9月4日(日)の公開シンポジウムは，12:30 から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加

される方は無料です。

- ・ 9月5日(月)のエクスカーションは、参加申し込みをされた方に、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。
- ・ 受付は弥生講堂一条ホール前のエントランスです。名札をお渡ししますので、会場内では必ず名札を付けてください。
- ・ 研究発表会参加費は、会員 6,000 円、非会員 10,000 円、学生（会員・非会員）3,000 円です。参加費には講演要旨集の料金が含まれています。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください。
- ・ 懇親会参加費は一律 5,000 円です。当日、会場にて徴収いたしますが、参加者人数を把握する必要がありますので、参加の有無について事前にお申込みください。

《口頭発表される方へ》

- ・ 口頭発表は全て備え付けのパソコンとプロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OS は Windows 8、プレゼンテーションソフトは Power Point 2013 (Office 2013) です。Mac, 古いバージョンの Power Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前に Power Point 2013 で動作するか確認を行ってください(動作確認を希望される方は会場係に申し出てください)。また、備え付けのパソコンは、通常の Windows 8 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・ パワーポイントのファイルは、発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし(例:A01_osugi)、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください(MO, DVD, CD-RW は不可)。提出期限は以下のとおりです。

9月3日(土)	午前セッション (A, B, C, D)	9:00 まで
	午後セッション (E, F)	12:00 まで

- ・ 発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴：10 分、2 鈴：12 分、3 鈴：14 分 30 秒です。時間厳守にご協力ください。
- ・ 発表直前にパソコンへファイルをコピーされる場合は、その作業時間も発表時間とみなします。上記提出期限までにファイルを提出していただくことをお奨めします。
- ・ パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ ポスター発表の会場は、セイホクギャラリーです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ ポスターは横 90 cm、縦 180 cm 以内のサイズで作製してください。ただし、縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします(A0 判 841mm×1,189mm を推奨します)。
- ・ ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けてください。
- ・ ポスターの掲示期間は9月2日(金)～3日(土)15:30 までの期間とし、ポスターは2日(金)の 8:30～11:00

の間に持参者自身で掲示してください。

- ・ポスター発表の発表件数が多いため、コアタイムは2部制にいたします。各コアタイムとも1時間です。
- ・コアタイムA（発表番号末尾奇数の方）は、9月2日(金)11:00～12:00、コアタイムB（発表番号末尾偶数の方）は、9月2日(金)13:00～14:00です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行ってください。
- ・ポスターの撤収は9月3日(金)15:30から18:00の間までに持参者自身で撤収してください。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープ等は会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PCなどの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また、大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。

《発表賞》

- ・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭／ポスターおよび研究／事例の各類別（全4類別）について秀でた発表に優秀発表賞（各若干名）を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞（各1名）を授与します。
- ・4日（日）の総会（10:30～11:30）に続いて、優秀発表賞の表彰を行います。

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。＞

【テーマ】

「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」

【企画のねらい】

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには、地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある。一方で、地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し、それに伴って国土強靱化が叫ばれ、平成 27 年 11 月には気候変動適応策が閣議決定された。このような状況に対して、環境と地域社会のレジリエンスを高めることが、未来を見据えた重要なテーマとなっている。応用生態工学はこれまで生態学・工学の間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが、今後は社会学・経済学等とも連携し、総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる。本シンポジウムは応用生態工学会 20 周年記念大会のハイライトとして、この応用生態工学の新たな展開を議論し、地域社会への貢献の方策を探る機会とする。

【公開シンポジウム プログラム(案)】

9月4日(日)

13:00 趣旨説明

13:10 第1部 「応用生態工学の評価と課題」

- ・応用生態工学会会長 辻本哲郎(名古屋大学名誉教授)
- ・応用生態工学会前会長 谷田一三(大阪府立大学名誉教授)

第2部 「新たな視点と連携」

- ・島谷幸宏(九州大学教授)
- ・西廣淳(東邦大学准教授)
- ・広田純一(岩手大学教授)
- ・宮内泰介(北海道大学教授)

第3部 パネルディスカッション

コーディネーター: 中村太士(北海道大学教授)

パネリスト : 第2部登壇者, 行政関係者等

17:00 終了予定

【参加費】無料



3. 自由集会 等

9つの自由集会が開催されます。集会には所属等によらず参加でき、事前申込は不要です。また、「河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（会議）が開催されます。

A. 「小さな自然再生が中小河川を救う！V」

【企画】三橋弘宗（兵庫県立大），林博徳（九州大），原田守啓（岐阜大）

【日時・会場】9月2日（金）9:00～11:00 一条ホール

【趣旨】2012年以來、自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」のタイトル名により4回の集會を積み重ねてきた。一昨年度に事例集の作成と発刊を契機として、全国各地に様々な取り組みが行われるようになり、多様な主体による参画が推進されている。技術面においても、魚道や河道変化に限らず、様々な工夫が取り入れられるほか、普及に伴って安全面への配慮についても考え方が整理されつつある。今回の集會では、これまで紹介されてこなかった方法（シードバンク）や行政による参画の方法（市、県や国）、そして安全管理について話題を取り上げ、より実務的に展開し、より多くのセクターからの参加を促すための方策について議論したいと思います。

【プログラム】

司会： 三橋弘宗・林博徳

話題提供： 各15分程度×5件（計75分程度）

①これまでの経緯と開催の趣旨説明（三橋）

②事例紹介

「池を掘ってシードバンクをリフレッシュ」

西廣淳（東邦大学）

「行政発信の小さな自然再生 豊田市岩本川モデルの挑戦」

伊藤匠・田中五月（一般社団法人 ClearWaterProject）

「河川整備で活かす小さな自然再生の取り組み紹介」

竹内えり子（建設技術研究所）

「小さな自然再生のための水理検討 入門編」

原田守啓（岐阜大学）

③小さな自然再生研究会の発足と実務講習会の案内（JRRN）

会場からのコメントと議論

B. 「ダム下流河川の生物群集の特性とその要因」

【企画】谷田一三（大阪市立自然史博物館），一柳英隆（水源地環境センター）

【日時・会場】9月2日（金）9:00～11:00 第8講義室

【内容】ダム下流は、ダムによる流況、流砂、水温・水質、粒状有機物などの変化を要因として、河川の生物群集が変化する。このことについては、応用生態工学会の前身の同研究会設立時以來、広く興味を持たれ、会誌『応用生態工学』においても特集がされている（1999年）。それ以降も、各研究者により研究が続けられているが、いったい何がどこまでわかったのだろうか？

ダム直下がどのような生物群集になるのか、ダムの規模や運用方法などによってどのように反

応が異なるのか、どのような要因が主に効いているのか、いままでの研究を総括するとともに、これからのダム管理にも貢献する研究について議論したい。

【プログラム】

- 一次生産者「ダムによって注目される一次生産の脇役たち：矢作川の事例から」
内田朝子（矢作川研究所）
・コメント：森 照貴（東京大学）
- 底生動物「底生動物群集はダム下流でどう変化しどう緩和されるか？」
片野 泉（奈良女子大学）・土居秀幸（兵庫県立大）・三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）・水守裕一・松岡真里奈・角絢香（兵庫県立大）
・コメント：一柳英隆（水源地環境センター）
- 魚類「ダム上下流の魚類群集比較の解析事例」小野田幸生（共生センター）
加藤康充（建設環境）・森 照貴（東京大学）・末吉正尚（共生センター）
・コメント：田代喬（名古屋大学）
- ★コメント（議論の導入として）：竹門康弘（京都大学防災研究所）
議論：谷田一三（大阪市立自然史博物館）コーディネーター
総括：辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）

C. 「生態系の自然浄化機能の理解と活かし方」

【企画者】中野和典（日本大学工学部），渡辺敏（株式会社ウエスコ）

【日時・会場】9月2日(金)9:00～11:00 第6講義室

【内容】人の生活にとって役立つ生態系機能について、概念は知っていても、具体的にわかって操れる人は少ないのが現状です。メカニズムを科学的に理解すれば、生態系の再生や資源利用に対して、今よりもっと積極的になれるはずです。

水質浄化を主題としつつ、快適な環境とヒトの生活を目標として、生きものによる浄化対策の実例、自浄作用の実測に関する情報、意見を交流します。

これまで当学会で扱われることが少なかった分野での意見交換です。今後実装例を増やすためにも、経験、興味のある方のご意見、ご批判を求めます。気軽にご参加ください。

D. 「応用生態工学で UAV を活用する！」

【企画者】山田浩之（北海道大学）・伊豫岡宏樹（福岡大学）・上野裕介（東邦大学）

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 一条ホール

【内容】UAV（ドローンとも呼ばれる）の機体性能の向上、SfM（Structure from Motion）技術の発展によって、自律飛行やオルソ画像の作成、地形測量が簡便に実施できるようになり、貨物運送や農業、災害分野など様々な分野での利活用が進んでいる。応用生態工学会でも環境や生物相調査での事例発表が増えつつあり、今後の益々の発展・普及が期待される場所である。この自由集会では、UAV 調査や SfM 技術の基礎、UAV に関する最近のトレンド、UAV を用いた様々な対象のモニタリング事例、微地形測量、ヒヤリハット事例や苦労話などについて話題提供いただき、各種調査に最適な UAV やソフトウェア、今後の展望、安全な運用方法などについて意見交換を行いたい。

【プログラム】

趣旨説明：山田浩之（北海道大学）

話題提供：

1. UAV でわかること，わからないこと：動植物や景観調査の事例から：上野裕介（東邦大学）
2. UAV-SfM による干潟モニタリングとハビタット評価：伊豫岡宏樹（福岡大学）
3. 大地をスキャンする！ 河川，湿地，森林の調査事例：丹羽英之（京都学園大学）
4. UAV を使ったちょっと変わった調査法：山田浩之（北海道大学）

総合討論：

コメンテーター 鎌田磨人（徳島大学）

E. 会議「第5回河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）

【意見交換会メンバー】

国土技術政策総合研究所：松尾和巳水環境研究官，福島雅紀主任研究官
土木研究所：萱場祐一上席研究員
土木学会水工学委員会環境水理部会：芝浦工業大学 宮本仁志教授，鳥取大学 矢島啓准教授，山口大学 赤松良久准教授，玉野総合コンサルタント(株) 大橋伸之
応用生態工学会：徳島大学 河口洋一准教授，名古屋大学 田代喬准教授，東邦大学 西廣淳准教授，国際航業(株) 中村敏一

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 弥生講堂会議室

【主旨】国土交通省においては，平成24年6月に河川砂防技術基準（調査編）（以下，河砂基準）が改定されました．その総論には「新たな調査方法等の採用に当たっては，国土技術政策総合研究所等による関連情報の収集・調査等によるほか，学識者や関係者等の意見を聞くことにより最新の調査方法，技術的知見，課題等を把握する作業を定期的に行い，調査編の内容を見直すこと」としており，産官学の連携を通じた河川管理技術の向上が期待されています．

このたび，河砂基準の環境分野の記載が，最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで，必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう学識者や関係者等と意見交換を行うことを目的として第5回意見交換会が開催されます．

※傍聴について：傍聴希望者は傍聴可能です（会場の人数制約有り，先着順）．ただし，傍聴者の発言はできません．

F. 「生物多様性の評価におけるβ多様性の重要性」

【企画者】森 照貴（東京大学）

【日時・会場】9月2日(金)14:30～16:30 第8講義室

【内容】応用生態学や保全生態学において，生物多様性を評価することは基本であり，特に種多様性に関しては多くの知見が積み重ねられてきた．しかし，種多様性を評価してきた多くの研究は，比較的小さな空間スケール（局所スケール）で観察される群集に注目し，その群集に含まれる種数（α多様性）や種構成に基づいた多様度指数のみを対象としてきた．一方，群集間にある種構

成の違い（ β 多様性）やより大きな空間スケール（地域スケール）で観察される種数（ γ 多様性）についても、言及した研究は少ないのが現状である。局所スケールでの種数（ α 多様性）の減少は、必ずしも地域全体の種数（ γ 多様性）の減少を引き起こすわけではない。その一方で、局所スケールでの種数（ α 多様性）が増加したとしても地域全体の種数（ γ 多様性）が低下することもある。 α 多様性と γ 多様性といった二つの指標が示す変化は、 β 多様性を考えることで理解することが可能であり、 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ 多様性といった3つの指標を一緒に考えることは種多様性を評価する上で重要だと考えられる。ただし、 β 多様性の計算方法は数多くあり、類似度もしくは非類似度といった名称で計算されることも多い。そこで、本自由集会では、これまで発表されてきた β 多様性を整理するとともに、それぞれの指標が何を意味するのかについて紹介する。そして、実際に β 多様性を用いて人為的インパクトを評価した研究例を紹介し、最後に β 多様性をどうやって使っていくべきなのか議論していきたい。

【プログラム】

■イントロ（20分）

「 β 多様性とは何をあらわしているのか？」森 照貴（東京大学）

■話題提供（各20分×4）

「氾濫原における水域の孤立化が植物群集に及ぼす影響」片桐 浩司（土木研究所）

「河川における流域の農地利用が底生動物群集に及ぼす間接的影響」末吉 正尚（土木研究所）

「農地における土地利用の変化が植物—植生性昆虫群集に及ぼす影響」内田 圭（東京大学）

「河川におけるダムの存在が底生動物群集に及ぼす影響」森 照貴（東京大学）

■議論（20分）

G. 「河川生態を分かり易く表現する」

【企画者】田代 喬（名古屋大学）

【日時・会場】9月2日（金）16:45～18:45 一条ホール

【内容】河川生態を理解するためには、実際の河川に見られる様々な事物や事象を直接的に観察・観測する活動が基礎となる。しかしながら、河川は複雑かつ変動的な対象であり、現場では捉えにくく感じ取りにくい多くの要素から成立している。本自由集会では、「博物館における河川生態の展示・教材化」や「河川生態を利用した実践・体験型学習」の取り組みを紹介いただきながら、河川生態を分かり易く伝える意義を再確認し、その方法について議論したい。

昨年度大会で企画・実施した「応用生態工学ならではの魅力ある普及・啓発コンテンツとは？」とその後の議論の整理から、テーマを絞って展開する。

【プログラム】

趣旨説明：田代 喬（名古屋大学）

話題提供1：河川生態の展示・教材化：三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館）

話題提供2：河川生態を利用した実践・体験型学習：野崎健太郎（椙山女学園大学）

事例報告：映像メディアの活用：渡辺友美（お茶の水女子大学・早稲田大学）

総合討議：方法論の整理・捉え方と見せ方：吉富友恭（東京学芸大学）

コメント：ホームページコンテンツなどへの展開：沖津二郎（応用地質）

H. 「河川環境保全の現場：過去・現在・未来」

【企画者】原田守啓（岐阜大）・久米学（京都大）

【日時・会場】9月2日(金)16:45～18:45 第8講義室

【内容】応用生態工学に関わる研究者・技術者が、河川環境保全の現場に関わる機会は、年々増えてきている。とくに、生態学、河川工学分野の研究者においては、現場に携わる場面が増えるにつれて、専門的な見地から如何に有効な助言をできるのかという点で、その存在意義が問われているのではないだろうか？その一方で、研究者の助言が、現場において有効に機能しない状況や、技術者の提案が発注者に受け入れられにくい状況があったりもする。また、関係者間のコミュニケーションがうまくいったとしても、その他の要因によって、保全目標が達成できないケースや、結果の検証がなされていないケースもあるだろう。

そこで、本自由集会では、河川環境保全に向けた取り組みが有効に機能するために研究者・技術者が留意すべきことを明確にすることを目的とする。そのために、我が国における取り組みの黎明期から現場に関わってきた研究者・技術者による異なる視点の経験談から、「河川環境保全の現場への関わり方」についての課題と対応策を抽出し、総合討論を通じて共有したい。そして、応用生態工学会の若い世代の研究者・技術者が、河川環境保全の現場でより活躍していける道筋を探りたい。

【プログラム】

1. 趣旨説明（10分）

河川工学の立場から：原田守啓（岐阜大）

生態学の立場から：久米学（京都大）

2. 話題提供（20分+質疑5分）

1) 佐川志朗（兵庫県立大）：（仮）検証可能な調査デザイン、現場の苦勞

2) 鬼倉徳雄（九州大）：（仮）生態学者としての現場への関わり方と闘い方

3) 渡辺敏（ウエスコ）：（仮）コンサルタント業務を通じた河川環境保全の提案の仕方

3. 総合討論（35分）

I. 「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？ —水田水域における多様な生物の保全と再生—」

【企画者】田和康太（兵庫県立大学）・佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園）・河口洋一（徳島大学）

【日時・会場】9月3日(土)15:45～17:45 一条ホール

【内容】水田とその周辺の農業水路やため池、承水路などで構成される水域はいわば水田水域と呼べるものであり、これらの連続性の高い水域では、豊かな生物多様性が維持されてきた。このことは、弥生時代以降、人間が後背湿地を水田に作り変えたことで、かつて後背湿地に生息していた多種の生物が、水田を代替生息地として利用したためと考えられている。しかし、全国的な傾向として、戦後の強毒性農薬の使用や1960年代から本格化した圃場整備事業による水田水域の連続性消失、中山間部での耕作放棄の進行等により、水田水域における生物多様性は大幅に低下した。そうした中、1990年代以降、全国的な水田の生物多様性保全に対する観点の高まりとともに、減・無農薬栽培や湿田および未整備の水田の特性を生かした工法と農法によって様々な取り組みが実施され、その効果が期待されている。本集会では、水田水域に生息する生物を対象とした各地の

取り組みとそれらの工法や農法に対する定量的評価の結果を紹介し、水田水域における生物の保全を将来的にどのような手段で進めていくべきか議論する。今後、本集会のシリーズ化を予定しており、初回では、鳥類や魚類といった大型種を中心とした保全事例に着目する。

【プログラム】

趣旨説明（田和康太・佐川志朗・河口洋一）5分

話題提供

<鳥類> 40分

コウノトリ野生復帰地における取り組みとその効果（佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園））

トキ野生復帰地における取り組みとその効果（関島恒夫（新潟大学））

<魚類> 45分

海域から水田域までのエコロジカルネットワークの確保による魚類群集の保全—鎌谷川を事例に—（田和康太（兵庫県立大学））

魚のゆりかご水田の取り組みとその効果（皆川明子（滋賀県立大学））

農業水路におけるスイゲンゼニタナゴの保全に向けて（中田和義（岡山大学））

総合討論（司会：河口洋一（徳島大学））25分

コメント（江崎保男（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園））5分

J. 「菊池川における河川生態学術研究：菊池川流域における地質による山地溪流の生態系の差異および氾濫原の環境の劣化と再生」

【企画者】島谷幸宏（九州大学）

【日時・会場】9月3日(土)15:45～17:45 第8講義室

【内容】国土交通省河川砂防技術研究開発，河川生態分野の公募研究に平成26年度採択された菊池川流域の研究結果の発表です。

菊池川は、九州中部に位置する流域面積約1,000 km²の河川で、源流域は阿蘇火砕流の影響を受け流域地質は複雑で、下流域は盆地と平野があり絶滅の危機に瀕する2枚貝やタナゴ類が生息する氾濫原です。

集会では渓流域、氾濫原域について発表します。渓流域では溶結凝灰岩、花崗岩、安山岩、泥質片岩の4種類の地質により、溪流形態が異なり、そこに生息する生物も地質の影響を受けていることを発表します。氾濫原では二枚貝やタナゴ類の現状、氾濫原生態系を保全するための方法について発表します。その後、討論を行いたいと思います。

【プログラム】

- ・研究の概要
- ・溪流の形態と生物相
- ・氾濫原の現状と氾濫原依存生物の保全手法

4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員による企業紹介、技術紹介等のポスター展示を行います。

場所：弥生講堂アネックスホール セイホクギャラリー

期間：9月2日（金）～3日（土）

5. エクスカーション

エクスカーションは、利根大堰～渡良遊水地～江戸川および首都圏外郭放水路コースを実施します。

公開シンポジウムのテーマである「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」に沿ったエクスカーションとし、気候変動に起因する豪雨災害への対応や長期にわたる環境変化にも適応した環境施策を行っている場所を見学し、その取り組みについて学びます。

① 利根大堰下流

地域に根ざす利根川を目指し、治水対策と環境対策との共存が期待される適切な掘削と管理を行うため、利根大堰下流域において治水と環境の一体的な対策が進められている。

② 渡良瀬遊水地

遊水地の機能と自然再生や水辺環境の保全・再生と地域振興・経済活性化の実現を目指す、エコロジカルネットワーク形成に向けた取り組みが行われている。

③ 江戸川河道掘削における湿地環境の創出・復元

河川改修（河道掘削）に合わせ、江戸川河川敷にかつてあった湿地環境や、水際の連続性（エコトーン）を創出し、湿地、樹林、草地のバランスのとれた河川環境（多様な生態系の基盤創出）を目指している。

④ 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路の整備は、中川・倉松川・大落古利根川等の洪水の際、その水の一部を江戸川へ放流するために各河川間を地下で結ぶ放水路を建設したもので、これにより流域の浸水被害を解消または軽減し、より安全で良好な生活環境を創造することとしている。

【コース・日程(予定)】

9月5日(月) 09:00 JR高崎線「行田駅」東口ロータリー出発
09:25 利根大堰下流の現地見学（砂礫河原再生，たまり池再生，湿地整備等）
11:15 渡良瀬遊水地の現地見学（水辺再生，エコロジカルネットワーク等）
12:30 昼食
14:30 河道掘削における湿地環境の創出・復元箇所，首都圏外郭放水路の見学
16:25 東武野田線（東武アーバンパークライン）「南桜井駅」解散

※定員40名 先着順とします。

※参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

6. 懇親会

懇親会は、第2日目（9月3日（土））の自由集会の後、18:00から農学部3号館の農学部食堂で行います。また、毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及連携委員会」コーナーも充実しております。その他、学会20年のあゆみを整理したポスター展示も用意します。ぜひご参加ください。

【日時】

平成28年9月3日（土） 18:00～20:00

【会場】

東京大学消費生活協同組合 農学部食堂

住所：〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 農学部 3 号館 農学部食堂

電話：03-3812-0577

7. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくは参加申込用紙の FAX 送信によりお申込みください。申込期限は8月20日(土)、参加費の振込期限は8月25日(木)です。

参加申込フォーム：http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAX によるお申込は、『参加申込書』にご記入のうえ、下記までお申込ください。

FAX 宛先：03-5216-8520

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員：6,000円、非会員：10,000円、学生(会員・非会員)：3,000円

※参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方は、3,000円で販売しています。

※大会期間中、大学構内にある学食は、2日(金)のみ営業しています。大学周辺には飲食店、コンビニエンスストアがあります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。希望される方は、参加申込時にあわせてお申し込みください。

〔2〕エクスカージョン

会員・賛助会員：2,000円、非会員：3,000円、学生(会員・非会員)：1,000円

昼食は各自でご用意ください。事務局で用意することもできます。希望される方は9月3日(土)までに第20回大会事務局(受付)までお申込みください。

〔3〕懇親会

一律：5,000円(懇親会費は当日、会場で徴収します。人数を把握するため、参加される方は事前にお申し込みください。)

【参加料振込先】

〔1〕銀行振込口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

〔2〕郵便振替口座

口座番号：00140-7-404275

口座名称：応用生態工学会

8. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室

TEL : .03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520

E-mail : tokyo_20th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス・会場案内 －

【会場】

東京大学農学部弥生講堂，農学部1号館

(東京都文京区弥生 1-1-1)

電話：03-5841-8205 (弥生講堂)

URL：http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/

【会場までの主な交通機関】

地下鉄：東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩1分

東京メトロ千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

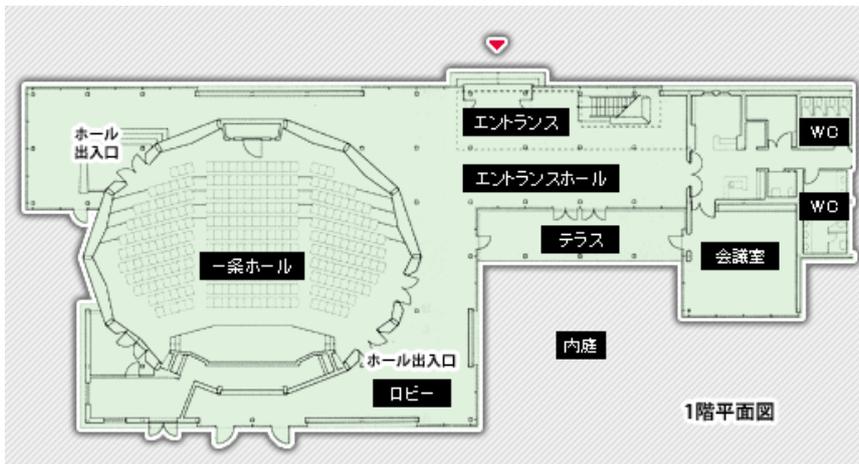
都営バス：御茶ノ水駅 (JR 中央線，総武線) より

茶51 駒込駅南口又は東43 荒川土手操車所前行

「東大 (農学部前バス停)」下車 徒歩1分

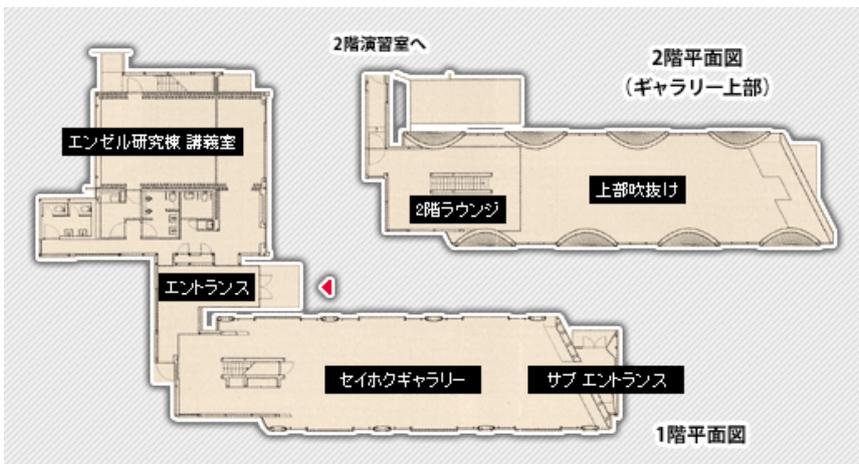


【東京大学農学部弥生講堂 案内図】



受付は
一条ホールエントランスです。

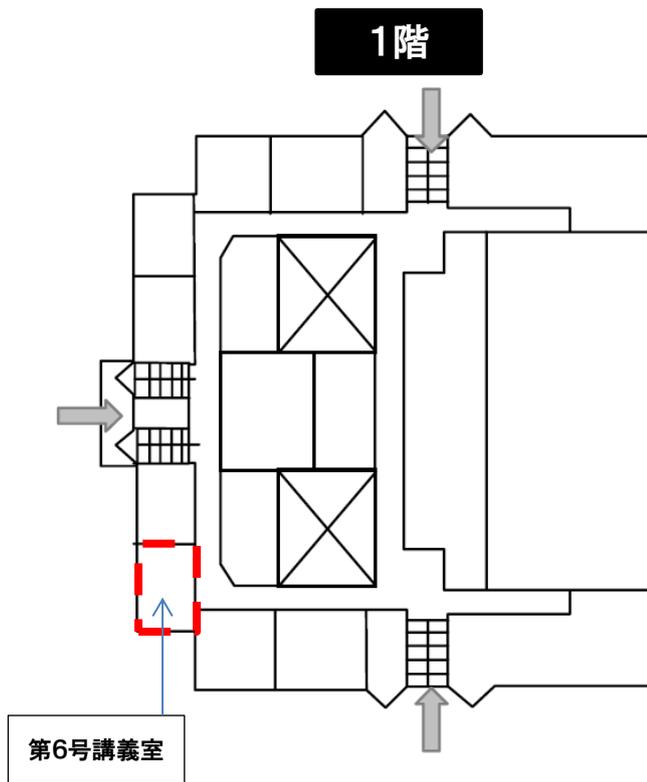
【東京大学農学部弥生講堂 一条ホール】



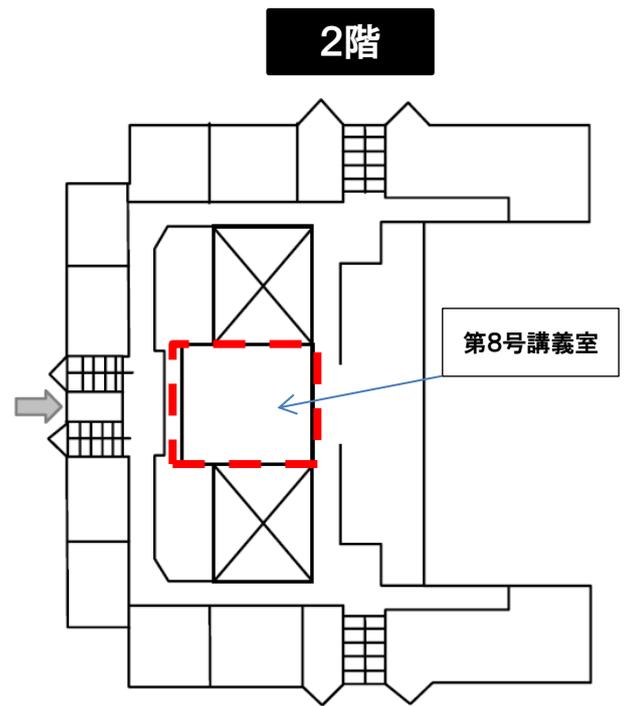
ポスターの掲示は
セイホクギャラリーです。

【東京大学農学部弥生講堂 アネックス】

【農学部 1号館】



【1号館 1階会場 配置図】



【1号館 2階会場 配置図】

－ プログラム・会場対応表 －

9月2日(金)	弥生講堂一条ホール(300名)	弥生講堂会議室(40名)	セイホクギヤラリー	1号館第8講義室(300名)	1号館第6講義室(50名)	エンゼルホール
8:30			受付開始			実行委員 控室
9:00	自由集會 小さな自然再生	—	ポスター・賛助会員展示準備	自由集會 ダム下流河川生物	自由集會 生態系の自然浄化	
11:00	—	—	ポスターコアタイムA	—	—	
12:00	—	—	—	—	—	
13:00	—	—	—	—	—	
14:30	自由集會 応用生態工学でUAV	—	ポスターコアタイムB	自由集會 生物多様性β 多様性	普及・連携委員会	
16:45	自由集會 河川生態の表現	—	ポスター・賛助会員展示	自由集會 河川環境保全の現場	—	
18:45	自由集會	—	—	自由集會	—	
9月3日(土)	一条ホール(300名)	弥生講堂会議室(40名)	セイホクギヤラリー	第8講義室(300名)	第6講義室(50名)	エンゼルホール
9:00	口頭発表 A河川環境評価 6	—	ポスター・賛助会員展示	口頭発表 B水質・物質循環 6	—	実行委員 控室
10:30	口頭発表 C魚類生態環境 6	—	—	口頭発表 D陸域生態系 7	—	
12:00	—	—	—	—	—	
13:00	—	—	—	—	—	
15:30	口頭発表 E底生動物 10	—	ポスター・賛助会員展示	口頭発表 F水生植物 10	—	
17:45	自由集會 水田水域の保全	—	ポスター・賛助会員展示撤去	自由集會 菊池川河川生態研究	—	
18:00	—	—	懇親会(会場：農学部3号館 生協)	—	—	
9月4日(日)	一条ホール(300名)	弥生講堂会議室(40名)	—			エンゼルホール
9:00	—	—	—	—	—	実行委員 控室
10:30	—	—	—	—	—	
11:30	—	—	—	—	—	
13:00	—	—	—	—	—	
17:00	—	—	—	—	—	
9月5日(月)	エクスカージョン					
9:00	利根大堰～渡良瀬遊水地～首都圏外郭放水路					

－ 研究発表会プログラム －

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

ポスター発表 9月2日(金) 一日目 11:00～14:00 [会場:セイホクギャラリー]	
11:00～12:00	コアタイムA(セッション末尾奇数番)
13:00～14:00	コアタイムB(セッション末尾偶数番)
セッションA 物質循環	
PA-1	河口湿地帯の二酸化炭素フラックスの動態解析:「研」 大谷壮介 [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・鞠川純平(同)
PA-2	汽水域の一次生産者による炭素固定機能の評価:「研」「審」 安原汰唯我 [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・辻大地(同)・大谷壮介(同)
PA-3	佐波川における一次元・二次元ハイブリット河川生態系モデルの開発:「研」「審」 河野誉仁 [※] (山口大学)・赤松良久(同)・永野博之(群馬工業高等専門学校)
セッションB ダム環境評価	
PB-1	ダム上流の魚類群集と生息域サイズとの関係性—河川水辺の国勢調査データを用いた全国スケールでの傾向把握—:「研」「審」 末吉正尚 [※] (土木研究所)・小野田幸生(同)・宮川幸雄(同)・堀田大貴(同)/(株)建設技術研究所)・永山滋也(土木研究所)・萱場祐一(同)
PB-2	ダム下流部における流路と河川間隙水域の有機物分解速度の季節性:「研」 笠原玉青 [※] (九州大学)・李彦達(同)
PB-3	底泥濃度の違いが魚類の生残率と成長速度に与える影響:「研」「審」 片岡寛敬 [※] (近畿大学)・河内香織(同)
PB-4	矢作川支流の巴川におけるカワゲラの分布:「研」 藤本卓也 [※] (愛知工業大学)・内田臣一(同)
PB-5	砂礫可携巣を持つビケラ類のダム上下流における巣材選択:「研」「審」 赤尾大樹 [※] (近畿大学)・河内香織(同)
セッションC 河口域・干潟	
PC-1	河口域の保全に向けた貝類相及び物理環境による河口域の類型化:「研」「審」 森田海 [※] (九州大学)・巖島怜(同)・島谷幸宏(同)
PC-2	瀬戸内海を中心とした干潟におけるウミニナの生息環境調査:「研」「審」 野元あい [※] (大阪府立大学工業高等専門学校)・大谷壮介(同)
PC-3	カニ類生息環境モデルの構築とそれらを適応した防潮堤水際域デザインの検討:「研」「審」 秋山秀樹 [※] (熊本大学)・皆川朋子(同)
PC-4	四国沿岸域におけるアマモ類 3 種の環境特性の比較と生息域推定:「研」「審」 中河哲郎 [※] (徳島大学)・乾隆帝(山口大学)・竹川有哉(徳島大学)・河口洋一(同)

セッションD 湖沼・湿地・水田・氾濫原

- PD-1 **畑地由来の養分・塩類負荷がミズゴケ類の被度に与える影響:「研」**
佐藤奏衣[※](札幌市立大学)・矢部和夫(同)・矢崎友嗣(北海道大学)・木塚俊和(北海道立総合研究機構)
- PD-2 **放棄水田を活用した湿地再生～印旛沼流域・八幡溜での試み～:「事」**
宮寄舞[※](東邦大学)・川井田美枝(同)・寺園直美(神崎川を守るしろい八幡溜の会)・西廣淳(東邦大学)
- PD-3 **岡山県南部の農業水路における国内希少野生動植物種スイゲンゼニタナゴの分布と環境要因の関係:「研」「審」**
咸成南[※](岡山大学)・宮武優太(同)・川井健太(同)・小林蒼茉(同)・齋藤稔(徳島大学)・青江洋(NPO法人倉敷水辺の環境を考える会)・中田和義(岡山大学)
- PD-4 **霞ヶ浦における2010年から2015年にかけてのアサザ植栽地での繁茂状況の変化:「研」「審」**
小室隆[※](東京大学)・山室真澄(同)
- PD-5 **氾濫原依存種保全の観点からみた高水敷緩傾斜掘削の評価:「研」「審」**
上杉幸輔[※](熊本大学)・伊東麗子((株)九州開発エンジニアリング)・皆川朋子(熊本大学)
- PD-6 **菊池川における河道内氾濫原水域分類別の氾濫原依存魚種生息場評価:「研」「審」**
岡村麻矢[※](熊本大学)・上杉幸輔(同)・皆川朋子(熊本大学)
- PD-7 **農業水路における希少タナゴ類の保全技術としての人工産卵床:「研」「審」**
小林蒼茉[※](岡山大学)・宮武優太(同)・青江洋(NPO法人倉敷水辺の環境を考える会)・中田和義(岡山大学)
- PD-8 **青森県上北郡七戸町の谷津水路におけるヤマアカガエルの越冬環境の把握:「事」**
柿野亘[※](北里大学)・高田沙織((株)キクチ)・竹内基(種市高等学校)・眞家永光(北里大学)・丹治肇(同)
- PD-9 **用排兼用土水路に生息する魚類の生態とその保全策の検討:「事」**
遠藤真仁[※](岩手県立大学)・鈴木正貴(同)・辻盛生(同)
- PD-10 **農法と景観構造が水田のカエル類の個体群密度に及ぼす影響 ～環境保全型農法はカエル類の生息に効果的か?～:「研」「審」**
福島庸介[※](兵庫県立大学)・内藤和明(同)・丸山勇氣((株)建設環境研究所)・田和康太(兵庫県立大学)・佐川志朗(同)
- PD-11 **水辺ビオトープにおけるゲンゴロウ類の種組成と生息場所について:「研」**
川崎敦[※](北里大学)・杉浦俊弘(同)・馬場光久(同)

セッションE 河川環境評価

- PE-1 **重信川水系における攪乱レジームと河川動物群集の関係:「研」「審」**
泉哲平[※](愛媛大学)・吉村研人(水資源機構)・井上幹生(愛媛大学)・三宅洋(同)
- PE-2 **河道リーチスケールでの植生・物理環境のモニタリングにおける縦断水位連続観測の有効性:「研」「審」**
吉川慎平[※](大同大学)・鷺見哲也(同)
- PE-3 **2014年の御嶽山噴火から1年後の王滝川水系における秋と冬の付着藻現存量:「研」**
野崎健太郎[※](椋山女学園大学)
- PE-4 **樋井川改修後のシロウオ産卵状況:「研」**
伊豫岡宏樹[※](福岡大学)、皆川朋子(熊本大学)
- PE-5 **扇状地河川における砂州表層の粒度及び凹凸の空間分布特性:「研」「審」**
荒川貴都[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-6 **国内河川における攪乱レジームと底生動物相の関係:「研」「審」**
渡辺裕也[※](愛媛大学)・吉村研人(水資源機構)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・森照貴(東京大学)・三宅洋(愛媛大学)
- PE-7 **山間地河道の礫段地形の保全・復元手法に関する基礎的検討～切立川における検討事例～:「研」「審」**
板垣侑理恵[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-8 **表層地質に着目した山地河川の地形特性の基礎的検討:「研」「審」**
天野裕行[※](岐阜大学)・原田守啓(同)
- PE-9 **直轄河川における平常時水位・水面域の推定方法の検討:「研」「審」**
宮脇成生[※]((株)建設環境研究所)・伊藤英恵(同)・加藤康充(同)・永山滋也(土木研究所)・萱場祐一(同)
- PE-10 **矢作川白浜工区ワンドに生育するツルヨシと物理環境に関する考察:「研」「審」**
大濱孝典[※](大同大学)・吉川慎平(同)・鷺見哲也(同)
- PE-11 **幅水深比による河川景観評価の山口県河川への適用可能性の検討:「研」**
関根雅彦[※](山口大学)・王嘉寧(同)・石田信一(山口県河川課)

セッションF 水質浄化・管理

- PF-1 **中小都市河川に流入する高度下水処理水が水生生物相に与える影響:「研」「審」**
中津彰太^{*}(九州大学)・島谷幸宏(同)・林博徳(同)
- PF-2 **水族園における水質浄化技術の開発と生物多様性の普及啓発:「事」「審」**
松下太郎^{*}((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)・國居彩子(神戸市立須磨海浜水族園)・平川雄治(同)・山橋正明(豊中市)・松原啓充(同)
- PF-3 **Water Quality Conservation and Environmental Management of the Inle Lake in Myanmar:「事」**
Htet Htet Moe^{*}(埼玉大学)・藤野毅(同)・Hnin Wityi((株)建設技術研究所)・伊藤一正(同)
- PF-4 **車軸藻によるファイトレメディエーションの研究:「研」「審」**
竹内千尋^{*}(埼玉大学)・浅枝隆(同)

セッションG 外来種

- PG-1 **外来魚の侵入リスク評価に用いる生物多様性指標に関する比較検討:「研」**
角田裕志^{*}(埼玉県環境科学国際センター)・満尾世志人(新潟大学)
- PG-2 **外来種アメリカザリガニの駆除手法の検討:「研」**
中田和義^{*}(岡山大学)・牛見悠奈(同)・白石理佳(同)・竹原早恵(同)
- PG-3 **七ヶ宿ダム(宮城県)におけるコクチバスの試験的な防除の取組み及びその効果:「事」「審」**
坂本正吾^{*}(応用地質(株))・丸谷成(同)・山本和司((株)復建技術コンサルタント)・阿部富雄(国交省東北地整七ヶ宿ダム管理所)
- PG-4 **榎野川水系におけるコイの河道内移動分布とその食性:「研」「審」**
後藤益滋^{*}(山口大学)・井上徹志(長崎大学)・城田久岳(香川学園)・合屋知彦

セッションH 遺伝子・微量元素解析

- PH-1 **微量元素およびストロンチウム安定同位体を用いたヒゲナガカワトビケラの発生地判別の可能性:「研」「審」**
工藤誠也^{*}(弘前大学)・井上博元(岩手大学)・野田香織(弘前大学)・渡邊泉(東京農工大学)・申基澈(総合地球環境学研究所)・東信行(弘前大学)
- PH-2 **河川水中に存在するDNAを活用した重信川の流域内水生昆虫種多様性解析:「研」「審」**
八重樫咲子^{*}(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PH-3 **淀川水系下流域のアユ個体群の耳石分析とDNA分析による降河履歴の推定:「研」**
竹門康弘^{*}(京都大学)・谷口順彦(淀川河川レンジャー)
- PH-4 **日本の気候勾配に沿ったオナシカワゲラ(*Nemoura* sp.)個体群の比較プロテオーム解析:「研」「審」**
山野俊介^{*}(愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・Maria Claret Lauan(同)・岩田久人(同)・渡辺幸三(同)
- PH-5 **マイクロPIXEを用いた水生生物組織の微量元素分析による生息環境情報の可視化の試み:「事」**
吉富友恭^{*}(東京学芸大学)・鈴木享子(東京大学)・及川将一(放医研量研機構)・武田志乃(同)

セッションI 魚類生態・生息環境

- PI-1 **土砂供給の影響予測に向けた魚類による淵の水深利用の把握:「研」**
小野田幸生^{*}(土木研究所)・堀田大貴(同/株)建設技術研究所)・萱場祐一(土木研究所)
- PI-2 **礫の露出高の違いがアユの採餌におよぼす影響—実験水路における河床操作実験—:「研」「審」**
堀田大貴^{*}(土木研究所/株)建設技術研究所)・小野田幸生(土木研究所)・宮川幸雄(同)・末吉正尚(同)・萱場祐一(同)
- PI-3 **イトウの幼魚期と成魚期における食性の比較:「研」**
鈴木享子^{*}(東京大学/東京学芸大学)・川原満(猿払イトウの会)・加賀谷隆(東京大学)・河口洋一(徳島大学)・清水泰(猿払村漁協)・藤本信治(オホーツク活魚)・永井英俊(猿払鮭鱒漁業)・吉富友恭(東京学芸大学)・大竹二雄(東京大学)
- PI-4 **ネコギギ繁殖場の物理条件及び繁殖場整備手法の検討:「研」「審」**
藤澤貴弘^{*}(水源地環境センター)・大杉奉功(同)・清水義孝(いであ株)・南野洋孝(同)・時耕清志(国交省設楽ダム工事事務所)・川村昭彦(同)
- PI-5 **カワヤツメ幼生による河畔林由来落葉分解物の摂取機構:「研」「審」**
荒川裕亮^{*}(石川県立大学)・柳井清治(同)・村上隆也(同)・三宅克英(同)
- PI-6 **流域特性が回遊性淡水魚類の河川利用に及ぼす相対的重要性:「研」**
満尾世志人^{*}(新潟大学)
- PI-7 **神通川におけるサクラマス*Oncorhynchus masou*の越夏場所の生息条件の選好性:「事」「審」**
尾関哲史(日本工営株)・諏佐晃一^{*}(同)・佐藤利行(国交省北陸地整富山河川国道事務所 *現所属 河川部)・星野康弘(同 *現所属 金沢河川国道事務所)

セッションJ 魚道・横断構造物

- PJ-1 **渓流域の落差工に対する魚道設置効果:「研」**
田原大輔^{*}(福井県立大学)・片山暢(同)・流守博(福井県建技技術研究センター)・前田健児(同)
- PJ-2 **渓流河川における砂防堰堤スリット化はサクラマスにどのような影響を与えたのか?:「研」「審」**
大場梢(山形大学)・渡邊一哉^{*}(同)
- PJ-3 **河川横断構造物が魚類の流程分布に及ぼす影響—北上川水系中津川を事例として—:「事」**
辻盛生^{*}(岩手県立大学)・鈴木正貴(同)・加藤溪(同)・小野寺海人(同)・加藤豪人(同)

セッションK 底生動物

- PK-1 **渡良瀬川における重金属濃度と底生動物相の時空間的变化：「研」「審」**
岩崎雄一[※](東洋大学)・多賀須誠樹(同)・柏田祥策(同)
- PK-2 **Aquatic Insect Community Survey in Chin State, Myanmar:「事」**
Hnin Myat Mon[※](埼玉大学)・Takeshi Fujino(同)・Aung Nanda(MSDES)・Daw Htike Hike(MMU)・Khin kyu Kyu(同)
- PK-3 **矢那川における落葉堆積形態の違いが底生生物相に与える影響:「研」「審」**
佐野尚毅(木更津高専)・菊池祐美(同)・鈴木涼太(同)・松田夏以(同)・湯谷賢太郎[※](同)
- PK-4 **盛岡市近郊に生息するゲンジボタルの生活史:「事」**
栗谷川剛志[※](岩手県立大学)・辻盛生(同)・鈴木正貴(同)
- PK-5 **河川に生息するトンボ目幼虫が好む微生息環境の推定:「研」「審」**
高良真佑子[※](近畿大学)・河内香織(同)
- PK-6 **天然記念物・美郷ホテルの飛翔数とカワニナ生息域の関係性:「研」「審」**
藤宗朋樹[※](徳島大学)・竹川有哉(同)・河口洋一(同)

セッションL 陸域環境

- PL-1 **環境保全措置に対するオオタカの反応:営巣地への蓋がけの事例:「事」「審」**
山本和司[※]((株)復建技術コンサルタント)・田中菜摘(同)・菅原慎一(国交省東北地整福島河川国道事務所)
- PL-2 **アルゴス型GPS発信機を用いた希少猛禽類オジロワシの飛翔特性と風況予測による関係性解析:「研」「審」**
林佑亮[※](徳島大学)・藪原佑樹(同)・内田孝紀(九州大学)・斉藤慶輔(猛禽類医学研究所)・山田芳樹((株)ドーコン)・河口洋一(徳島大学)
- PL-3 **環境影響評価における蝙蝠の調査方法に関する考察(2):「事」「審」**
見上伸[※]((株)日立パワーソリューションズ)・高橋雅也(同)・福井聡(日本気象協会)・和田伸久(同)・魚崎耕平(日本気象協会)・前川聡(くろしお風力発電(株))

セッションM グリーンインフラ・ECO-DRR

- PM-1 **エネルギーの地産地消とグリーンインフラ(その2)-公園緑地の震災避難所としての機能強化施策-:「事」**
藤野毅[※](埼玉大学)・ディペンドラ(同)・飯嶋光幸((株)高橋製作所)・田島克己(NPO秩父100年の森)
- PM-2 **グリーンインフラが有する多機能性を、いかにして引き出すか？
麻機遊水地での防災・生物多様性・健康・地域活性化の取組み:「研」「審」**
上野裕介[※](東邦大学)・大澤剛士(農研機構)・西廣淳(東邦大学)
- PM-3 **日本における都市型グリーンインフラストラクチャーの導入可能性:住宅地における雨水調整池と空き地の活用策の検討:「研」「審」**
高橋栞[※](東邦大学)・上野裕介(同)・西廣淳(同)
- PM-4 **阿蘇地域における植生と斜面崩壊との関連分析～グリーンインフラによる阿蘇草原再生を目指して～:「研」**
天本昌吾[※](熊本大学)・吉廣鎮(同)・皆川朋子(同)

セッションN 地域協働・情報発信

- PN-1 **散布体バンクを活用した水生植物の再生可能性と市民参加型プログラムの検討—東京都内の公園を対象に—:「研」「審」**
白土智子[※](東邦大学)・林紀男(千葉県立中央博物館)・内山香(東京都西部公園緑地事務所)・西廣淳(東邦大学)
- PN-2 **水辺の小さな自然再生を通じた川づくりの人づくりPDCA ～コラボで取組む段階的な人材育成プログラム(試案)～:「事」「審」**
和田彰[※]((株)建設技術研究所)・岩瀬晴夫((株)北海道技術コンサルタント)・三橋弘宗(兵庫県立大学)、原田守啓(岐阜大学)・林博徳(九州大学)・後藤勝洋(リバーフロント研究所)
- PN-3 **沖縄本島億首川におけるマングローブ林の再生管理に向けた協働モニタリングの開発:「研」「審」**
竹村紫苑[※](総合地球環境学研究所)・鎌田磨人(徳島大学)
- PN-4 **島嶼の地域知を活かした海洋保護区の計画—長崎県五島列島三井楽半島の事例:「事」**
清野聡子[※](九州大学)・坂本峻(同)・井上晃輔(同)・滝沢恭平(同)・會津光博(同)
- PN-5 **博物館における微小な生物生態の視覚化に関する調査—欧州の自然史系博物館及び水族館展示調査から—:「事」「審」**
渡辺友美[※](早稲田大学)

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

口頭発表 9月3日(土) ー2日目ー 9:00~15:30 [会場:一条ホール]

セッションA 河川環境評価

- 9:00 OA-1 「**遺伝情報を用いた魚類移動環境評価の可能性**」:「研」
安形仁宏[※]((株)建設技術研究所)・瀬口雄一(同)・太田宗宏((株)建設環境研究所)・飛鳥川達郎(同)・増本育子(中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・村岡敬子(土木研究所)
- 9:15 OA-2 「**環境DNAを用いた河川生物量推定法～回遊性遊泳魚であるアユに着目して～**」:「研」「審」
乾隆帝[※](山口大学)・赤松良久(同)・土居秀幸(兵庫県立大学)・一松晃弘(山口大学)
- 9:30 OA-3 「**水文・生息場モデルを用いた河川健全度評価手法の提案**」:「研」「審」
糠澤桂[※](宮崎大学)・風間聡(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
- 9:45 OA-4 「**微小貝を使った環境評価法の検討**」:「研」
芝崎美世子[※](大阪市立大学/大阪自然環境保全協会)
- 10:00 OA-5 「**中小河川における河川環境の整備と保全の目指すべき方向性と目標の検討**」:「事」「審」
千葉悠子[※]((株)北海道技術コンサルタント)・渡辺恵三(同)
- 10:15 OA-6 「**市民参加による生物モニタリングが参加者の学びと地域への関心に及ぼす影響―チノービオトープフォレストにおける事例紹介―**」:「事」「審」
辻野昌広[※](日本生態系協会)・佐々木雅裕(千葉大学)・相澤章仁(同)

セッションC 魚類生息環境

- 10:30 OC-1 「**河床の細粒底質量とカジカ(大卵型)の摂取餌および栄養蓄積状態との関係**」:「研」
尾張由輝也[※](東京大学)・加賀谷隆(同)
- 10:45 OC-2 「**連続砂防堰堤区間での夏季水温上昇**」:「研」
鷺見哲也[※](大同大学)・河口洋一(徳島大学)
- 11:00 OC-3 「**テレメリー技術等を用いたサクラマスが生息実態・生息環境特性の把握～黒部川における魚類生息環境の復元に向けて～**」:「研」「審」
大石三之[※]((株)建設技術研究所)・長野紀章(同)・高橋裕美(同)・田島洋輔(日本大学)・越野正史(前国交省北陸地整黒部河川事務所)・井田聡(国交省北陸地整黒部河川事務所)
- 11:15 OC-4 「**階段式魚道等の流れ場と魚類の移動環境**」:「研」
村岡敬子[※](土木研究所)・萱場祐一(同)
- 11:30 OC-5 「**宮中取水ダムせせらぎ魚道の運用水深変更に伴う効果の検証**」:「事」
青木克憲[※](東日本旅客鉄道(株))・竹内洋介(同)・柘本拓(同)
- 11:45 OC-6 「**七ヶ宿ダムにおける外来魚の現状と新しい駆除方法の効果**」:「事」「審」
山本和司[※]((株)復建技術コンサルタント)・田中菜摘(同)・阿部富雄(国交省東北地整七ヶ宿ダム管理所)・坂本正吾(応用地質(株))

12:00~13:00 ー 休憩 ー

セッションE 底生動物

- 13:00 OE-1 「山地流路工を対象とした枠式人工河岸の導入とその効果の検証」:「事」
山下奉海^{*}(九州大学)・福留峻介(同)・巖島怜(同)・島谷幸宏(同)
- 13:15 OE-2 「河川の平面形状特性が生息場構造へ及ぼす影響」:「研」「審」
高橋真司^{*}(京都大学)・渡辺幸三(愛媛大学)・大村達夫(東北大学)・竹門康弘(京都大学)
- 13:30 OE-3 「人工角柱粗度周囲の底面流れとチラカゲロウの空間選考性に関する水路実験」:「研」「審」
坂田良介^{*}(埼玉大学)・田中規夫(同)
- 13:45 OE-4 「矢作川の瀬における造網性トビケラ類から見た河床攪乱と砂州の微地形との対応」:
「研」
内田臣一^{*}(愛知工業大学)
- 14:00 OE-5 「大和川の本川と支川における底生動物群集および攪乱後の過程」:「研」「審」
河内香織^{*}(近畿大学)・熊谷元気(同)・矢野貴史(同)
- 14:15 OE-6 「土地区画整理事業に向けた流水性イシガイ類の一時的待避場所の検討～移植後2年間の成長・生残・流出の記録から～」:「研」
永山滋也^{*}(土木研究所)・塚原幸治(ふるさと自然再生研究会)・萱場祐一(土木研究所)
- 14:30 OE-7 「千曲川中流域におけるシマトビケラ科幼虫の二次生産速度の推定」:「研」
平林公男^{*}(信州大学)・中山美咲(同)・岡田俊典(同)・崔翔気(同)
- 14:45 OE-8 「ダム湖におけるザリガニの濁水耐性」:「研」「審」
飯村幸代^{*}(北海道栽培漁業振興公社)・中尾勝哉(同)・川井唯史(北海道立総合研究機構)
- 15:00 OE-9 「特定外来植物ヒガタアシの掘削防除で白川河口の底生動物類はどう変化したか?」:
「研」「審」
前原裕^{*}(近畿大学/日本スパルティナ防除ネットワーク)・西野惇志(近畿大学)・木村妙子(日本スパルティナ防除ネットワーク/三重大学)・早坂大亮(近畿大学)
- 15:15 OE-10 「神奈川県流域の地史、林相、ニホンジカ密度が異なる源流河川における底生無脊椎動物群集の構成の変異」:「事」
大平充^{*}(神奈川県自然環境保全センター)・内山佳美(同)

セッションB 水質・物質循環

- 9:00 OB-1 「山地河川における河床付着物の一次生産等の推定のためのDO連続観測結果」:「研」
「審」
白鳥実^{*}((株)四電技術コンサルタント)
- 9:15 OB-2 「溶存酸素濃度の連続観測を用いた矢作川の一次生産量の推定」:「研」
内田朝子^{*}(豊田市矢作川研究所)・今泉久祥(伊勢志摩里海学舎)・谷田一三(大阪市立自然史博物館)
- 9:30 OB-3 「テーゲル湖(ドイツ)におけるIDHを活用した気泡循環対策」:「研」
古里栄一^{*}(埼玉大学)、Jayatu Kanta Bhuyan(同)・Ingrid Chorus(Federal Environment Agency Germany)・Jutta Fastner(同)・今本博臣(水資源機構)
- 9:45 OB-4 「アンカーアイスの形成と剥離および物質輸送に関する現地観測」:「研」
吉川泰弘^{*}(北見工業大学)・岡部博一(寒地土木研究所)・鳥谷部寿人(同)・田中忠彦(同)
- 10:00 OB-5 「植生管理用貯水トレンチ内の生息生物と貯留水質に関する研究」:「研」
山西博幸^{*}(佐賀大学)・大石京子(同)
- 10:15 OB-6 「盤州干潟潮間帯泥中の脱窒菌鉛直分布」:「研」
「審」
中村亮太^{*}(木更津高専)・湯谷賢太郎(同)

セッションD 陸域環境

- 10:30 OD-1 「オガルカヤの生育する河川堤防における土壌断面調査」:「事」
白井宏尚^{*}((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)・藤田庸介(大阪市建設局)・小林誠治(同)
- 10:45 OD-2 「市民参加型モニタリングにより明らかとなった利根運河堤防部におけるセイヨウアブラナの分布拡大」:「事」
「審」
相澤章仁^{*}(千葉大学)・田中愛子(同)・辻野昌広(日本生態系協会)
- 11:00 OD-3 「キンラン属3種の生態解明と保全手法の確立に向けて」:「研」
「審」
長谷川啓一^{*}((株)福山コンサルタント)・大城温(国土技術政策総合研究所)・長濱庸介(同)・光谷友樹(同)・井上隆司(同)・上野裕介(東邦大学)・遊川知久(国立科学博物館)
- 11:15 OD-4 「河川水辺の国勢調査を用いたマクロスケール解析による全国規模での鳥類分布変化の解明」:「研」
「審」
藪原佑樹^{*}(北海道大学/徳島大学)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・山浦悠一(森林総合研究所)・中村太士(北海道大学)
- 11:30 OD-5 「猛禽類調査法:目視/テレメ/GPS調査結果の比較」:「研」
阿部學^{*}(ラプタージャパン(日本猛禽類研究機構))・中島拓也(同)
- 11:45 OD-6 「猛禽類調査におけるGPS発信器の活用法」:「研」
阿部學(ラプタージャパン(日本猛禽類研究機構))・中島拓也^{*}(同)
- 12:00 OD-7 「トウキョウサンショウウオの基礎代謝における温度と体重の影響」:「研」
「審」
栗田将司^{*}(木更津高専)・湯谷賢太郎(同)

12:15~13:00 — 休憩 —

セッションF 水生植物

- 13:00 OF-1 「付着藻による河床礫の揚力特性変化に関する基礎研究」:「研」「審」
長谷見優[※](埼玉大学)・田中規夫(同)
- 13:15 OF-2 「佐波川におけるオオカナダモの繁茂・流失要因の検討」:「研」「審」
赤松良久[※](山口大学)・乾隆帝(同)・掛波優作(同)
- 13:30 OF-3 「流路側岸植生帯による砂・粒状有機物の捕捉と横断方向平面二次元解析へのその取り込み」:「研」
尾花まき子[※](名古屋大学)・全浩成(韓国技術研究院)・辻本哲郎(名古屋大学)
- 13:45 OF-4 「琵琶湖における沈水植物群落の変遷」:「研」「審」
波多野圭亮[※](水資源機構)・松永徹(同)
- 14:00 OF-5 「汽水域のヨシ原の成立高さと長期的潮位変動との関連についての考察」:「事」
渡辺敏[※]((株)ウエスコ)・白井宏尚(同)・藤田庸介(大阪市建設局)・小林誠治(同)・松本和功(同)
- 14:15 OF-6 「ハス(*Nelumbo nucifera*)はどの葉からガスを放出しているのか」:「研」「審」
古畑光[※](東京農工大学)・島村誠人(同)・今野凌(同)・利谷翔平(同)・周勝(上海市農業科学院)・寺田昭彦(東京農工大学)・細見正明(同)
- 14:30 OF-7 「The effect of iron exposure on oxidative stress and antioxidative responses of *Egeria densa*」:「研」「審」
Mahfuza Parveen[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・Md H. Rashid(同)
- 14:45 OF-8 「Photosynthetic performance and stress response of *Potamogeton anguillanus* to salinity」:「研」「審」
Hendadura Chandani Chalanika De Silva[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 15:00 OF-9 「Variation of intracellular 2-MIB in cyanobacterium *Pseudanabaena galeata* and its relation to nutrient limitation」:「研」「審」
Helayaye Damitha Lakmali Abeynayaka[※](埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 15:15 OF-10 「Revisiting SCDM (Sverdrup Critical Depth Model) and quantifying the importance of P-I(Photosynthesis-Irradiance) equation – Case study without photoinhibition-」:「研」「審」
Jayatu Kanta Bhuyan[※](Brandenburg University of Technology)・Eiichi Furusato(埼玉大学)・Marion Martienssen (Brandenburg University of Technology)・Brigitte Nixdorf(同)・Hiroomi Imamoto(水資源機構)

応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会） 開催案内

開催日時 平成28年9月2日（金）～5日（月）

日程：9月2日（金） 研究発表会 ポスター発表、自由集会
9月3日（土） 研究発表会 口頭発表、自由集会、懇親会
9月4日（日） 総会（午前）、公開シンポジウム（午後）
9月5日（月） エクスカーション（渡良瀬遊水地、首都圏外郭放水路 他）

会場：東京大学 農学部 弥生講堂，農学部第1号館（東京都文京区 東京大学弥生キャンパス内）
本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラムに申請予定です。

参加申し込み（研究発表会・総会・エクスカーション）

URLの申し込みフォームで受け付けます。また、ファックスでの申し込みも可能です。参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上、右記へファックスして下さい。なお、詳細は裏面をご参照ください。

●申し込みおよび問合せ先
応用生態工学会事務局
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5
麹町ロイヤルビル405号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520
E-mail:tokyo_20th@ecesi.com
【大会実行委員長：虫明功臣(東京大学名誉教授)】

公開シンポジウム「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンス－応用生態工学の新たな展開－」

<日時> 平成28年9月4日（日曜日） 13:00～17:00

<場所> 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

公開シンポジウム
参加費：無料

<開催主旨>

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには、地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある。一方で、地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し、それに伴って国土強靱化が叫ばれ、平成27年11月には気候変動適応策が閣議決定された。このような状況に対して、環境と地域社会のレジリエンスを高めることが、未来を見据えた重要なテーマとなっている。応用生態工学はこれまで生態学・工学間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが、今後は社会学・経済学等とも連携し、総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる。本シンポジウムは応用生態工学会20周年記念大会のハイライトとして、この応用生態工学の新たな展開を議論し、地域社会への貢献の方策を探る機会とする。

<プログラム>

13:00 趣旨説明

13:10 第1部 「応用生態工学の評価と課題」

- ・応用生態工学会会長 辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）
- ・応用生態工学会前会長 谷田一三（大阪府立大学名誉教授）

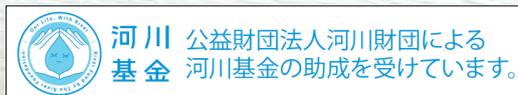
第2部 「新たな視点と連携」

- ・島谷幸宏（九州大学教授）
- ・西廣淳（東邦大学准教授）
- ・広田純一（岩手大学教授）
- ・宮内泰介（北海道大学教授）

第3部 パネルディスカッション

コーディネーター：中村太士（北海道大学教授）

パネリスト：第2部登壇者、行政関係者等



後援(予定)：国土交通省関東地方整備局、河川財団、東京大学、建設コンサルタンツ協会関東支部、土木学会関東支部、日本緑化工学会、日本景観生態学会

会場と交通 (研究発表会・懇親会・公開シンポジウム)

東京大学農学部 弥生講堂, 1号館

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生キャンパス内
 Tel 03-5841-8205(弥生講堂1号館)
 URL: <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

交通:地下鉄:東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩1分
 東京メトロ千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

都営バス:御茶ノ水駅(JR中央線・総武線)より
 茶51駒込駅南口又は東43荒川土手操車所前行
 「東大(農学部前バス停)」下車 徒歩1分



参加費 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

研究発表会 会員:6,000円、非会員:10,000円、学生(会員・非会員)3,000円
 参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。
 ※大会期間中は9月2日(金)のみ学食の営業があります。大学周辺にはコンビニエンスストア、飲食店があります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。必要な方は参加申込みと同時に申し込みください。
 エクスカージョン 会員・賛助会員:2,000円、非会員:3,000円、学生(会員・非会員):1,000円
 懇親会参加費 5,000円 (当日徴収します。人数把握のため事前にお申し込みください。)

参加費振込先 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

銀行振込口座

銀行名 :東京三菱UFJ銀行麹町中央支店
 口座番号:(普通)1302920
 口座名称:応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

郵便振替口座

口座番号:00140-7-404275
 口座名称:応用生態工学会

参加申込書 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)

申込締切りは2016年8月20日(土)迄
 振込締切りは2016年8月25日(木)迄

URL: http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry
 FAX 宛先 03-5216-8520 E-mail: tokyo_20th@ecesj.com

(ふりがな) 氏名			会員No.(正・学生・賛助)	
所属				
連絡先 (自宅・所属) いずれかに○	〒 住所	e-mail:		
	参加申込		参加費(必要箇所)に✓	
研究発表会 (発表要旨集代込)	9月2日(金)~3日(土)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員(6,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(10,000円) <input type="checkbox"/> 学生(会員・非会員)(3,000円)	
懇親会	9月3日(土)	参加・不参加	当日徴収します(5,000円)	
シンポジウム	9月4日(日)	参加・不参加	無料	
エクスカージョン	9月5日(月)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 正会員・賛助会員(2,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(3,000円) <input type="checkbox"/> 学生(会員・非会員)(1,000円)	
昼食の注文	9月2日(金)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	大会期間中、学食の営業は2日(金)のみです。 会場周辺には飲食店、コンビニエンスストアがあります。
	9月3日(土)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
	9月4日(日)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
研究発表会に参加しないが、発表要旨集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表要旨集代が含まれています。)				
参加費の合計			合計	円
連絡事項	請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。			

4 鬼怒川災害調査報告会 開催報告

報告者：山田浩之（応用生態工学会会長特命鬼怒川災害調査団、北海道大学大学院農学研究院）

平成 27 年 9 月に発生した関東・東北豪雨にともなう鬼怒川災害発生を受けて、辻本哲郎会長（名古屋大学名誉教授）からの特命による会長特命鬼怒川災害調査団を結成した。団長を中村太士（北海道大学教授）、副団長を島谷幸宏（九州大学教授）として、生態学、河川工学、地形学など様々な専門分野の会員 29 名が公募により集まった。この調査団による合同調査を、茨城県常総市を中心として平成 27 年 10 月 29 日に実施した。調査団では、この調査結果に基づいて「平成 27 年関東・東北豪雨を踏まえた鬼怒川での河川工事計画への提言」を取りまとめ、平成 28 年 2 月 10 日に国土交通省水管理・国土保全局に提出した。



また、平成 28 年 4 月 27 日には、調査団主催にて、調査団結成の趣旨や経緯説明、調査報告を目的とした会員対象の報告会を開催した。ここでは、この報告会の概要について報告する。

< 報告会内容 >

主催：応用生態工学会会長特命鬼怒川災害調査団

開催日：平成 28 年 4 月 27 日（水）9 時 30 分～12 時 30 分

開催場所：東京大学農学部キャンパス 中島董一郎記念ホール

参加費：無料

参加数：48 名（個人会員および賛助会員）

プログラム：

会長挨拶 辻本哲郎（応用生態工学会会長、名古屋大学名誉教授）

趣旨説明 中村太士（団長、北海道大学大学院農学研究院教授）

経緯説明 西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

鬼怒川災害調査報告

報告 1 災害の状況について

大槻順朗（団員、国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員）

報告 2 復旧・防災・減災計画で考慮すべき自然環境

西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

報告 3 災害後の河畔砂丘林の状況とその復元について

山田浩之（団員、北海道大学大学院農学研究院講師）

報告 4 地形的・歴史的 analysis を踏まえた超過洪水対策

巖島怜（団員、九州大学大学院環境社会部門助教）

総合討論 コーディネーター：島谷幸宏（副団長、九州大学大学院工学研究院教授）

司会：西浩司（団員、いであ株式会社国土環境研究所生物多様性計画部部長）

<開催概要>

会長挨拶 辻本哲郎（応用生態工学会会長、名古屋大学名誉教授）

この鬼怒川災害は、これから起こり得る巨大災害、激甚災害に対して、応用生態工学としてどのように対応し、取り組んでいくのかを理事会や幹事会で検討している最中に生じた。この災害について、緊急に対応する必要があり、会長特命として調査団を結成した。今回の調査団は有志で構成されているが、今後はこの活動を礎とし、学会として研究者、技術者、行政が一丸となって、今後のあり方を議論することが大切である。この報告会がそうした議論の場となればと思う。

趣旨説明 中村太士（団長、北海道大学大学院農学研究院教授）

東日本大震災の後に応用生態工学でも復興に貢献できないかという思いがあり、昨年度の大会で、それについて議論し、どういう形で活動するのがよいのかを検討していたところ発生した災害であった。萱場理事からの呼びかけにより、自主的に調査員が集まり、合同調査を実施した。行政の様々な計画が決定する前に提言を出す必要があったため、会長の特命を受けて調査団を結成して活動を進めた。その緊急性という背景の中で、結果的に理事会や幹事会を通さずに国交省宛に提言を提出することとなった。



本報告会は、この提言の内容、そして調査団の活動を学会員に周知し、意見交換を行うことを趣旨としており、この報告会で今回の方法や手順が良かったのかどうかも含め、提言や報告書の内容についてご意見を伺いたい。報告書はまだ案の状態であるが、昨年閣議決定がなされた温暖化適応策につながる内容も盛り込まれている。そうした問題については今後も長い時間をかけた議論が必要であり、応用生態工学として貢献できればと考えている。

経緯説明 西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

現在理事会、幹事会で検討されている災害調査対応の組織やフローの解説、本調査団結成から本報告会開催までの経緯について説明した。また、ここでの報告は、調査団より収集したショートレポートをまとめたものであること、この報告会は迅速な会員への周知、意見収集を目的としていることについて説明した。



鬼怒川災害調査報告

大槻順朗（団員、国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員）

西廣淳（団員、東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授）

山田浩之（団員、北海道大学大学院農学研究院講師）

巖島 怜（団員、九州大学大学院環境社会部門助教）

当日配布された「平成27年9月関東・東北豪雨鬼怒川災害調査報告書（案）」に基づいて各担当章の執筆者による報告がなされた。大槻氏からは、破堤・溢水地点や堤内の冠水状況を中心に、災害の状況について報告があった。西廣氏からは、災害後の鬼怒川の河道内の環境、生物相に関する報告と、特命調査団として提出した提言に関する解説があった。山田からは溢水地点の若宮戸地区の砂丘林の変遷、防災・減災機能に関する報告と溢水地点の復元方法についての提案を行った。巖島氏からは、鬼怒川の治水史や地形の解説とともに、それを考慮した災害対策、とくに堤内地の遊水地利用と遊水池の環境保全、今後の超過洪水と環境に調和した堤内地のあり方に関する提案があった。

総合討論 コーディネーター：島谷幸宏（副団長、九州大学大学院工学研究院教授）

総合討論では報告書の構成に関する意見、浸水をはじめ災害発生メカニズムに関する質問、砂丘林の水害に対する耐力の有無や超過洪水対策の考え方に関する意見があり、それを踏まえた上で学会としての今後の災害調査のあり方などについて活発な議論が行われた。この他、団員からの活動時の反省や今後の災害調査の運営に対する要望などがあった。また、調査対象は河道だけでなく堤内地も含めて行い、災害に対して耐力のある地域づくりも検討すること、提言も河川技術者だけでなく様々な専門分野を有する学会員や社会に対して行うなど、被災地に学びながら時間をかけて応用生態工学が貢献できることを、これから広く、積極的にアピールしていければという意見もあった。

最後に、島谷副団長より本報告会の直前に発生した熊本地震について情報提供があり、学会として災害調査のあり方を引き続き検討する必要があること、調査団による災害調査は学会としての初めての取り組みであり、学会内でしかるべき手順を進めることができなかったということもあるが、ひとつの段階として捉え、今後の災害調査へステップアップさせることができればという意見が述べられ閉会した。

<今後の活動について>

中村団長から、本報告会でいただいたご意見を踏まえて、報告書をとりまとめて会長あてに提出する予定であること、学会ホームページで公開する予定であることについて説明があった。



5 行事開催案内と開催報告

5.1 第15回北信越現地ワークショップ in 新潟 開催案内

越後平野の生物多様性保全と再生への取り組みと今後の課題

応用生態工学会 新潟

北信越地域における現地ワークショップは、通算15回目を迎え新潟での開催は4回目となります。応用生態工学会新潟では、広大な越後平野の生態系を中心に開催してきました。今回も『越後平野の生物多様性保全と再生への取り組み』をテーマに、第15回北信越現地ワークショップ in 新潟を、平成28年10月28日（金）～29日（土）の2日間で開催いたします。

今回は特に生物多様性基盤の保全・再生後における今後の維持管理のあり方はどのような方向が望ましいかを考えていきます。ぜひ、多くの皆さまの参加をお願いいたします。

1. 開催趣旨

越後平野における生物多様性の保全と再生に関するさまざまな取り組みを紹介するとともに、社会環境の変化も踏まえた上で、市民、行政、学識者等が問題点を共有し、環境の多様性をどう理解し、どのように行動すべきかを議論する。また、我が国が人口減少社会へ向かい始めた状況下で様々な課題が顕在化してくる現状を踏まえ、社会基盤の一部を構成する生物多様性基盤の保全・再生は今後どのような方向が望ましいのか探るものです。

2. 開催概要

・平成28年10月28日（金）9：30～17：00

ワークショップ：新潟日報メディアシップ 2F 日報ホール（新潟駅から徒歩約10分）

交流会：新潟駅周辺

・平成23年10月29日（土）9：00～17：00

現地見学会：鳥屋野潟、阿賀野川及び五十嵐川沿川

・主催：応用生態工学会 新潟

・協賛及び後援：調整中

3. ワークショップ

○開会あいさつ 実行委員長 玉井 信行（東京大学名誉教授）

○基調講演

・河道掘削を川の再生に活かす！—河道内陸域環境の分析・評価・予測方法を巡って—

萱場 祐一（国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ）

○一般講演

1) 日本の水質環境50年を振り返る 早川 典生（長岡技術科学大学名誉教授）

2) 越後平野における生態系ネットワークの形成に向けた取り組み

古山 利也（国土交通省北陸地方整備局）

3) 五十嵐川の災害復旧事業における多自然川づくり（新潟県三条地域振興局地域整備部）

4) 鳥屋野潟の湖岸堤整備に向けた環境調査等事例（新潟県新潟地域振興局地域整備部）

5) 生態系配慮施設整備の評価と今後の方向性（仮題）近藤 義則（新潟県農地部農地計画課）

- 6) 潟の自然環境に関する話題（仮題） 小林 博隆（新潟市環境部環境政策課）
- 7) 圃場整備地域における戦略的な生息地再生計画の提案 石間 妙子（福岡県保健環境研究所）
- 8) その他：民間からの発表（NPOなどから2，3事例）
- 総合討論 ー生物多様性基盤の保全・再生と維持管理の望ましい姿を考えるー
- ・コーディネーター 関島 恒夫（新潟大学教授）
 - ・パネリスト 講演者より選出

4. 現地見学会

- 9時：新潟駅南口出発 東三条駅（富山石川方面しらゆき接続）経由 新潟駅着 17時
- ・ビッグスワンスタジアムより鳥屋野潟を望む
 - ・亀田郷水田地帯（車窓から）
 - ・阿賀野川（ワンド整備箇所）
 - ・五十嵐川（多自然川づくり整備箇所）

5. 参加申し込み等

1) 参加費

- ・ワークショップ 正・賛助会員 2,000円 非会員 3,000円 学生 1,000円
 - ・現地見学会 正・賛助会員 3,000円 非会員 4,000円 学生 2,000円
- ※現地見学会は昼食代を含みます
- ・交流会 5,000円（当日お支払いください）
- *振込先 【ゆうちょ銀行】 口座名称：応用生態工学会新潟 口座番号：11270-14664511
他機関からの振込：〈店名〉二八〈店番〉128 〈預金種目〉普通預金 〈口座番号〉1466451

2) ワークショップ会場案内

新潟日報メディアシップ 2F 日報ホール

〒950-0088 新潟市中央区万代 3-1-1 TEL 025-385-7447

信濃川萬代橋そば、JR 新潟駅から徒歩約 10 分、タクシーで 5 分

会場地図詳細 <http://niigata-mediaship.jp/access/>

3) 申し込み・問い合わせ先

申し込み用紙は応用生態工学会ホームページ (<http://www.ecesj.com>) に掲載する予定です。申し込み用紙に記入の上、FAX または同等内容のメールでも受付いたします。

申込締切：平成 28 年 10 月 14 日（金）

振込締切：平成 28 年 10 月 21 日（金）

問い合わせ先：応用生態工学会 新潟事務局

(株)建設技術研究所 北陸支社内（担当：大川、金子）

TEL：025-245-3883 FAX：025-241-9082

Email：eces-niigata@ctie.co.jp（応用生態工学会新潟）

ポスターセッションの参加も上記で受け付けています（9月9日（金）まで）。

6. CPD 受講証明書

CPD 申請書・受講証明書について（ワークショップとフィールドツアーは別々の単位認定になります。）必要な方は、CPD 受講証明書を発行いたします。

（一社）建設コンサルタンツ協会CPD・全国土木施工管理技術士連合会CPDS プログラム認定（予定）です。

5.2 第8回全国フィールドシンポジウム in 仙台 開催報告

『都市河川 名取川水系の自然と再生 ～東日本大震災5年後～』

2016年(平成28年)7月1日(金)～7月2日(土)シンポジウムおよびフィールドツアー

応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 仙台 事務局

応用生態工学会仙台 普及・連携委員 (㈱復建技術コンサルタント 佐藤高広)

応用生態工学会全国フィールドシンポジウム第8回目となる今回は、6年ぶり(平成22年7月に実施)に仙台で開催し、シンポジウムでは125名、フィールドツアーでは51名の参加をいただきました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災した名取川河口を含む名取川水系について、仙台市・名取川等を流れる都市河川における名取川流域における土砂移動、水質および生物多様性の保全と再生に関するさまざまな取り組みを共有し、その課題について議論しました。

●開催趣旨

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により発生した津波により、東北の太平洋側の沿岸部は甚大な被災を受けました。宮城県仙台市・名取市等を流れる名取川および広瀬川からなる名取川水系では、河口部を含めて津波による被災を受けましたが、震災から5年が経過し、復旧工事が進み、生態系も回復しつつあります。

以上を踏まえて、名取川流域における土砂移動、水質および生物多様性の保全と再生に関するさまざまな取り組みを紹介するとともに、震災前後の社会環境の変化も踏まえた上で、市民、行政、学識者等が問題点を共有し、土砂移動および環境の多様性をどう理解し、どのように行動すべきかを議論しました。また、我が国が人口減少社会へ向い始めた状況下で様々な課題が顕在化してくる現状を踏まえ、社会基盤の一部を構成する生物多様性基盤の保全・再生は今後どのような方向が望ましいのか探りました。

●実施体制・参加者内訳等

主催：応用生態工学会

協賛：(一社)東北地域づくり協会・東北環境アセスメント協会

後援：国土交通省東北地方整備局・仙台市・(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部

実施主体：応用生態工学会仙台

参加人数：延べ176名(シンポジウムでは125名、フィールドツアーでは51名)

実行委員長：占部城太郎(東北大学大学院生命科学研究科 教授)

CPD単位：7月1日4.00、7月2日4.00 ((一社)建設コンサルタンツ協会認定)

●シンポジウム

日時：2016年7月1日(金)

会場：日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)

参加費：無料

参加者：125名

プログラム：

13：00 開会 趣旨説明

13：10～14：50 基調講演(50分×2名)

- 1) 「名取川における河川・海岸事業の課題について」：畠山慎一(東北地方整備局河川部長)
- 2) 「名取川河口の地形変化—津波前後の相違に着目して—」：

田中仁(東北大学大学院工学研究科 教授)

15：00～16：20 一般講演(20分×4名)

- 1) 「広瀬川創生プラン」について：杉井智一(仙台市建設局百年の杜推進部河川課
広瀬川創生室 室長)
- 2) 「大地震が名取川河口汽水域の水産資源に与えた影響とその再生過程」：
伊藤絹子(東北大学大学院農学研究科 助教)
- 3) 「名取川流域の生態系の未来」：風間聡(東北大学大学院工学研究科 教授)
- 4) 「釜房ダムの水質について」：梅田 信(東北大学大学院工学研究科 准教授)

16：25～17：25 意見交換会 座長 占部城太郎(東北大学大学院生命科学研究科 教授)

17：30 閉会

「名取川における河川・海岸行政について」：畠山 慎一 氏

名取川の河川・海岸事業の課題として、①河川流量の確保、②潟湖である井戸浦の環境、③樹木管理の3つの視点からご講演いただきました。①は名取川の支川である広瀬川、旧策川への環境導水事業について、②は東日本大震災以降の復旧事業と環境変化への取り組みについて、③は河道掘削・樹木伐採の実施とその後の環境モニタリングについて、科学的データに基づく順応的管理の実践事例をお話いただきました。



基調講演 1: 畠山 慎一 氏

「名取川河口の地形変化—津波前後の相違に着目して—」：

田中 仁 氏

東日本大震災に伴う津波前後の違いに着目した名取川河口の地形変化についてご講演いただきました。仙台海岸における沿岸漂砂特性と名取川河口の導流堤建設、広浦分離による地形変化についてご紹介いただいた後、津波後の地形変化を踏まえ、被災により分離した導流堤の延伸や名取川—井戸浦間の水路開削の必要性等の課題が示されました。



基調講演 2: 田中 仁 氏

「広瀬川創生プラン」について：杉井 智一 氏

仙台のシンボル・広瀬川の新たな魅力の発見と創出を目指す『広瀬川創生プラン』についてご講演いただきました。平成 27 年度から第二期計画がスタートしたプランの基本理念や基本目標と施策の方向、推進体制についてご説明いただいたほか、具体的な取組事例や広瀬川の代表的な風景のご紹介もありました。



一般講演 1: 杉井 智一 氏

「大地震が名取川河口汽水域の水産資源に与えた影響とその再生過程」：伊藤 絹子 氏

東日本大震災による名取川河口汽水域の生物群集に対する影響とその後の再生過程について、水産資源の視点からご講演いただきました。天然アユの資源量が比較的速やかに回復する一方、震災後の河口地形の変化により河口域の淡水化が長期化し、二枚貝(ヤマトシジミ、アサリ)の生息分布や密度が大きく変化したこと等をご報告いただきました。



一般講演 2: 伊藤 絹子 氏

「名取川流域の生態系の未来」：風間 聡 氏

地球温暖化が名取川流域の底生動物に及ぼす影響についてご講演いただきました。底生動物群集のうちカワゲラ目やトビケラ目は水温感度が高いため、地球温暖化による影響が大きく、IPCC の RCP8.5 シナリオ(最も温暖化が進んだケース)では将来的に消失してしまう可能性があること等をご紹介いただきました。



一般講演 3: 風間 聡 氏

「釜房ダムの水質について」：梅田 信 氏

名取川水系の釜房ダムにおける水質問題と対策の現状についてご講演いただきました。「仙台の水瓶」で発生した藻類由来の異臭味問題の経緯と、その対策として実施されている複数方式での曝気の効果についてご紹介いただいたほか、新分類体系による発臭原因藻類の特定に向けた取り組みのお話もありました。



一般講演 4: 梅田 信 氏

意見交換会

占都城太郎氏が座長となり、基調講演や一般講演の中で話題の多かった「河川環境管理とモニタリング」を中心テーマとして、質疑応答や意見交換が行われました。

◆主な意見等

- 河川水辺の国勢調査が継続的に実施されているが、経年変化の

要因分析等がなされておらず、河川整備計画等の基礎情報として十分活用されていないのではないかと。調査自体のメリハリを付けていく必要があるだろう。

- 調査結果を一般の人でも使える形で公開してほしい。
- 地球温暖化による海面上昇で、砂浜が消失する可能性があり、今後の大きな課題である。
- 比較的遠い未来(100年後)の生態系の予測を行い、その結果も考慮しながら河道計画を立案していくことが望ましい。
- 順応的管理を実践する上では、少しずつ手を加えて応答を確認し、必要に応じて次の手を打っていく段階的なアプローチが必要だろう。
- 成功事例や「よい」研究成果だけでなく、失敗事例の発信もしてほしい。
- 水辺空間における人と自然との触れ合い活動の機会を増やしてほしい。
- 河川管理は現在、防災目的が主流となっている。応用生態工学学会には、河川管理にCVMなど環境指標を組み込む取り組みを進める等、新しい価値観の醸成を期待したい。



締めくくりとして、占部氏から、地球温暖化を含めてさまざまなリスクが増大する中、順応するための余地を残して河川計画・設計を策定していくことの重要性が指摘され、意見交換会が終了しました。

●懇親会

日時：2016年7月1日(金)18:00~20:00

会場：ビストロ ボンテン Bistro Bonten 仙台駅前店(仙台市内)

参加費：5,000円

参加者：48名

懇親会では、講師の方々も含め全国から集った多様な分野・所属の皆様が交流し、賑やかなひとときでした。



●フィールドツアー

日時：2016年7月2日(土)

会場：名取川流域(宮城県仙台市・名取市・川崎町)

参加費：2,000円(バス・お弁当込)

参加者：51名

プログラム：

8:30 仙台駅集合・出発

9:00 名取川河口：①海岸堤防復旧工事箇所

(解説：国土交通省仙台河川国道事務所 奥山吉徳 副所長)

②東谷地

(解説：東北大学大学院生命科学研究科 占部城太郎 教授)

③河口左岸

(解説：東北大学大学院農学研究科 伊藤絹子 助教)

④河口右岸

(解説：東北大学大学院工学研究科 田中仁 教授)

11：05 広瀬川中流部：仙台市営地下鉄東西線 国際センター駅

(解説：特定非営利活動法人 都市デザインワークス 豊嶋純一氏)

12：25 昼食 茂庭亭

13：30 釜房ダム：釜房ダム管理所・ダム湖・資料館

(解説：国土交通省釜房ダム管理所)

特別講座<ダム湖クルーズの待ち時間>

(解説：京都大学防災研究所 竹門康弘 准教授)

16：30 仙台駅解散

当日は、あいにくの梅雨空でしたが、雨は午前中ぱらついた程度で、概ね曇天で経過しました。名取川を河口から上流に遡るツアーは、予定通りの行程を進めることができました。

東日本大震災からのインフラの復旧状況・生態系の回復、市民レベルでの河川環境の活用、流域の水瓶であるダム湖の水質保全など、多岐にわたる見学ができました。

■名取川河口

【海岸堤防復旧工事箇所】

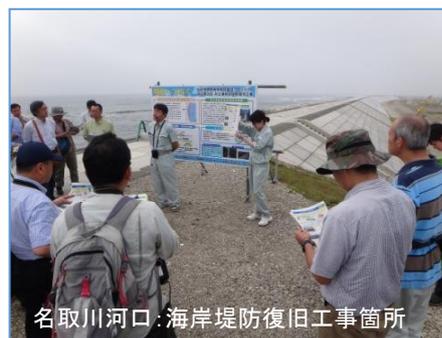
仙台海川国道事務所 奥山副所長から、「仙台湾南部海岸深沼地区海岸 井土浦地区堤防復旧」と海岸堤防築造における環境配慮について解説していただきました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では海岸堤防は決壊し、沿岸地域は甚大な被害を受けました。海と井土浦に挟まれた幅が狭い地形条件や自然環境への影響、現地発生材の活用を総合的に評価し、堤防敷幅を従来型の半分程度にできる直立型堤防(CSG：Cemented Sand and Gravel 堤防)が採用されています。

【東谷地】

東北大学 占部先生から、東谷地の歴史、東日本大震災後の環境・生態系の変化について解説していただきました。

現在の干潟環境は、今後の復旧工事において、貞山堀運河との通水を確保することで維持されるということです。



名取川河口：海岸堤防復旧工事箇所



名取川河口：東谷地



名取川河口：左岸

【河口左岸】

東北大学 伊藤先生から、前日のシンポジウムの講演「大地震が名取川河口汽水域の水産資源に与えた影響とその再生過程」について、現地にて補足解説をしていただきました。

ヤマトシジミについては、漁場は震災後の塩水遡上により上流側にシフトし、資源量は回復しました。アサリについては、震災後の河口地形の変化のため、長雨の後に河口域の淡水化が長期化し減耗を繰り返しています。河道掘削や導流堤復旧の効果が期待されるということです。

【河口右岸】

東北大学 田中先生から、前日のシンポジウムの講演「名取川河口の地形変化―津波前後の相違に着目して―」について、現地にて補足解説をしていただきました。

震災直後の河口地形、震災後の砂州の位置の変化、導流堤の機能等について、伊藤先生の解説も踏まえて説明していただきました。

■広瀬川中流部

広瀬川は、名取川最大の支川です。都市デザインワークスの豊嶋氏から、藩政期からの広瀬川と住民との関わり、広瀬川河畔におけるまちづくりの現状について解説していただきました。

見学場所の地下鉄東西線(平成27年12月開業)国際センター駅には、広瀬川と仙台市街地が一望できる屋外テラスが併設され、市民の憩いの場ともなっています。

見学後、参加者全員で記念撮影を行いました。

■釜房ダム

【ダムの水質保全・ダム湖クルーズ・資料館】

釜房ダム管理所 鹿野所長から、水質保全の取り組みとして、曝気装置の整備経過や機能について解説をしていただきました。

管理所のご厚意により、巡視船と作業船を出して頂き、ダム湖の曝気の状況を間近に見学するクルーズを行いました。

管理所に併設されている資料館では、釜房ダムの歴史や諸元について説明を受けた他、記念に「ダムカード」をいただきました。

【特別講座】

ダム湖クルーズの待ち時間の間、京都大学 竹門先生から、今西錦司先生の「棲み分け理論」について解説をしていただきました。パワーポイントの資料の他、途中サンプリングした底生動物も使っ



名取川河口:右岸



広瀬川:国際センター駅



釜房ダム湖クルーズ



釜房ダム:資料館



竹門先生の特別講座

での説明となりました。

サンプルの中にはモクズガニもあり、名取川は縦断的連続性が保たれていることが実感できました。

●おわりに

本大会には多くの皆様にご参加いただき、事故や大きなトラブルもなく、仙台で2回目の全国FSの全行程を無事終えることができました。

河口から中流域を経てダムまで、工学・生態学・行政・市民活動等の多様な内容を盛り込むにあたり、ご講演者の皆様をはじめFSに携わっていただいた皆様には企画段階から当日の運営まで快くご協力を賜りました。

講演者の皆様、協賛をいただいた(一社)東北地域づくり協会・東北環境アセスメント協会、後援をいただいた国土交通省東北地方整備局・仙台市・(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、現地案内をいただいた国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所および釜房ダム管理所ならびにNPO法人都市デザインワークスの皆様、運営にご協力いただいた実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。2年連続で全国規模の大会が実施できたことで仙台の事務局の結束も固まったと思いますので、今後とも精力的に活動していきたいと思っております。

6 Society for Freshwater Science Annual Meeting 2016 参加報告

北海道大学大学院 環境科学院 流域保全管理学研究室 三浦一輝

派遣期間：2016年5月19日～2016年5月25日

開催地：アメリカ・カリフォルニア州サクラメント

会議の名称：Society for Freshwater Science Annual Meeting

ホームページ：<http://sfsannualmeeting.org/>

(1) はじめに

この度、応用生態工学会様から支援を頂き、Society for Freshwater Science Annual Meeting 2016に参加させていただいたので、その概要を報告させていただきます。本会議は2016年5月20日～25日にアメリカのカリフォルニア州サクラメントで開催されました。

(2) 大会概要

今年度の本会議のテーマは”Running on Empty: Increasing Demands on Freshwater Resource in the Face of a Changing Climate”でした。テーマの通り、近年、世界各地で気候変動による淡水生態系への影響が問題視される中、水資源の需要を満たし、かつその生物多様性やその機能を維持していくために陸水学がどのような解決策を提示できるか考え、議論することが本会議の目的でした。世界中から数百名が参加し、陸水学に関連する基礎から応用までの幅広い内容について、20の通常セッションと27のスペシャルセッションにおいて口頭とポスターによる発表、議論が行われました。本会議で発表されていた内容

として多かったのは「環境DNA」に関連する発表であり、環境DNAが今後のモニタリングや研究の手法としての利用への期待が大きい印象を受けました。ただし、紹介されていた研究の多くは試行の段階であり、今後も様々な生物、様々な状況下で試行を行い、どのような条件の時に環境DNAが有効なツールとなるか模索していく必要があると感じました。また、「ダム撤去」に関するトピックも多数発表されていました。国内と違い、近年アメリカではダム撤去が行われており、様々な分類群の生物や様々な生態系、生態系機能への影響が長期的にモニタリングされつつあることに非常に感銘を受けました。

(3) 発表内容

私は会議4日目に行われたポスターセッションにて発表を行いました。2014年から2015年までの2年間、河川に棲む希少淡水二枚貝カワシンジュガイ属の機能を北海道東部で調べ、カワシンジュガイ属がエゾアカガエルの越冬場所を創出することを示しました。本会議ではその結果に、カエルの陸と河川の移動データを加え、貝の息がカエルの越冬地提供を介して水域と陸域を結びつけるのではないかと、という仮説を含めた発表を行いました。私にとって初めての国際会議への参加であり、コアタイムも2時間半と国内学会に比べて長かったことから、発表前は不安と緊張でいっぱいでした。しかし、コアタイムではリラックスして議論をすることができ、人が途切れることなく多くの方々が私のポスターに足を止めてくださりました。

アメリカの「他の人の研究もより良く、より面白くしていこう」という気概も強く感じることができ、国内との違いを体感しつつ、頂いたコメントは今後の自身の研究活動の大きな励みになりました。

(4) おわりに

以上のように、今回の渡航支援により国内学会では経験できない貴重な体験をすることができました。これらの経験を今後の自身の研究活動に活かしていきたいと思っております。最後になりましたが、今回ご支援いただいた応用生態工学会の皆様には厚く御礼申し上げます。

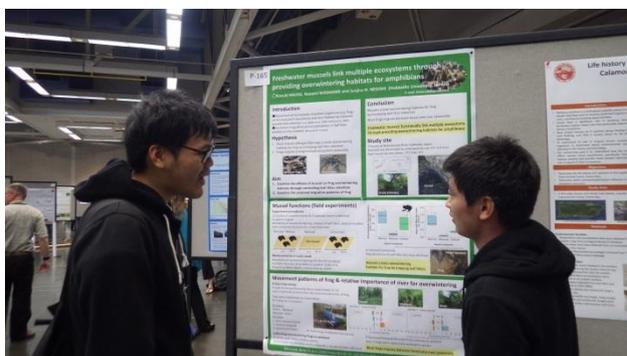


写真 筆者（右）のポスター発表の様子

7 年間行事予定

2016年度(平成28年度)行事予定	
4.1	2016年度(平成28年度)開始
4.5	第83回理事会 (麴町：弘済会館)
4.6～25	国際交流委員会(メール会議)、2016年度海外学会等への派遣者決定
4.22	第1回テキスト刊行委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
4.26	第20回大会(20周年記念東京大会)第2回実行委員会 (東京大学工学部)
4.27	鬼怒川災害調査報告会 (東京大学農学部中島董一郎記念ホール)
5.17	ELR2017名古屋、第1回実行委員会 (名古屋大学)
5.25	ニュースレター72号発行
6.13～23	第1回事務局改善ワーキンググループメール会議
6.29	会誌編集委員会編集幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
7.1～2	第8回全国フィールドシンポジウムin仙台 「都市河川 名取川水系の自然と再生～東日本大震災5年後～」 7月1日(金)：シンポジウム (日立システムズホール仙台) 7月2日(土)：フィールドツアー (名取川・広瀬川・釜房ダム)
7.4	第20回大会(20周年記念東京大会)第3回実行委員会 (東京大学工学部)
7.15	第69回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
7.25	フィールドシンポジウムin櫛田川 櫛田川現地見学とシンポジウム (櫛田川、津商工会議所)
7.27	第84回理事会 (麴町：弘済会館)
7.28	ニュースレター73号発行
7月	会誌「応用生態工学」Vol.19-1発行
9.2～5	応用生態工学会第20回大会(20周年記念東京大会)(東京大学弥生講堂・農学部1号館) 9月2日(金)：研究発表(ポスター発表)、分科会、自由集会 9月3日(土)：研究発表(口頭発表)、自由集会、懇親会 9月4日(日)：午前/総会、午後/公開シンポジウム 9月5日(月)：エクスカージョン
9.2～4	大会期間中に、第70回幹事会、第85回理事会、各委員会を開催
10.8	第2回ミュージアム連携ワークショップin大阪 (須磨海浜水族園)
10月	応用生態工学会長野 地域勉強会
10.28～29	第15回北信越現地ワークショップin新潟 (新潟市新潟日報メディアシップ日報ホール)
	応用生態工学会福井 地域勉強会
10月～12月	遠賀川中島自然再生研究会 (直方市)
11.11	第3回北信越事例発表会 (富山県立大学)
12月	ニュースレター74号発行
12月	第71回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
1月	会誌「応用生態工学」Vol.19-2発行
2月	ニュースレター75号発行
2月	2017年度 海外学会等への派遣員の募集
2月	第86回理事会
3.31	2016年度(平成28年度)終了

8 事務局より

8.1 勤務先等の会員情報変更登録のお願い

会員情報変更登録にご協力ください。

会誌 19-1 も近々発刊の予定です。例年、少なからず宛所に会誌が届かず、返送されています。会員情報の変更をお忘れ無くお願いいたします。

変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して、送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス、e-mail eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

8.2 既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、現在、書類整理を進めています。その中では、学会誌の在庫が棚を占める割合が多いことから、これの整理に取りかかりました。今後は一定の保管量を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。ご案内期間は8月末日とさせていただきます。

希望される会員は、学会事務局のアドレス e-mail eces-manager@ecesj.com までお知らせください。事務局では、申込者に郵送経費を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

8.3 学会事務所に、Skype 機材を購入しました

委員会などの会議用に、Skype 機材を購入しました。学会事務局では Skype には登録しておりませんので、登録したパソコンをご持参のうえ、学会のネットを使ってご利用ください。

.....

〔2016年7月9日現在会員数〕

名誉会員 : 8名

正会員 : 944名

学生会員 : 130名

合計 : 1,082名

LEE 購読者数

正会員 : 85名

学生会員 : 1名

名誉会員 : 1名

合計 : 87名

賛助会員 : 36法人 (53口)